

平成30年度

アクティブ・ラーニング推進事業実践のまとめ(2年次)

研究主題

考えを深め・広げ・課題解決につなぐ算数科学習の取組  
～主体的・協働的な活動をとおして～

北九州市立千代小学校

## アクティブ・ラーニング推進事業（2年次）実践計画

次期学習指導要領に取り上げられている主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点から授業の在り方について、3カ年計画で研究実践を行っております。

なお、本校は本年度、福岡教育大学と連携して研究実践をすすめます。

### 【研究主題】

考えを深め・広げ・課題解決につなぐ算数科学習の取組  
～主体的・協働的な活動を通して～

子どもは、これからの社会を生きぬくために、思考力・判断力・表現力、実践力・行動力、協調性や人間関係力など、多様な資質・能力を身に付けていく必要があります。これらの能力を総合的な学習の時間だけでなく、教科学習においても育てていきます。そのために本校では今年度、次の2点に着目して研究を進めます。

### 手立て① 発達段階に応じた話し合い活動の充実

○子どもに身に付けさせたい資質・能力

- ・主体性、協働性、問題解決力、自己の成長を実感（自信をつける）

### 手立て② 教師の課題提示の工夫

○教師が身に付けたい指導力

- ・子どもが考えたくなる導入

解決したいと思うような授業の入り方や児童の生活に密着した課題  
発問（知恵を出し合い、多様な考えに気付かせるため）

### 【平成30年度 授業づくり研修・授業公開予定日 一覧】

月・日	教科	内容（講師）	学年・組	授業者
5月30日（水） 6校時	算数	人文字 （福岡教育大学 今井一仁先生）	5年1組	篠田 千春
9月12日（水） 5校時	外国語	Unit 2 「Let's play cards」 （指導主事 草野 啓顕先生）	4年3組	一木 悦子
9月28日（金） 5校時	算数	3つのかずのけいさん （九州女子大学 萬徳紀之先生）	1年2組	日高 璃奈
10月15日（月） 5校時	算数	三角形 （指導主事 草野 啓顕先生）	3年1組	堂本 直美
10月31日（水） 5校時	算数	三角形 ※特別支援学級（自閉・情緒） （特別支援教育課 林謙吾先生） （指導主事 草野 啓顕先生）	やまもも 学級	村橋 正剛
11月21日（水） 5校時	算数	資料の調べ方 （福岡教育大学 今井一仁先生）	6年2組	山中 秀記
11月28日（水） 5校時	道徳	きまりのない学校 （指導主事 小倉 大二先生）	2年1組	赤瀬 加枝

### 【連絡先】北九州市立千代小学校

電話 617-4700

担当 教務主任 藤井 哲哉

教頭 川嶋 岳

# 千代小学校主題研究のまとめ（2年次）

## 研究主題「考えを深め・広げ・課題解決につなぐ算数科学習の取組」 ～主体的・協働的な活動を通して～

### 手だて① 発達段階に応じた話し合い活動の充実

#### 【1年】

・問題作りやブロック操作の説明では、「聞き方・話し方のきりさん」を意識させた。その上で、自分の考えとどこが同じでどこが違うかを比べながら聞くようにさせた。  
・隣同士（ペア）を基本とするが、全体の場でも同じ視点をもたせ、友達の発表をよく聞いたりよく見たりする態度につなげた。

#### 【2年】

・自分の考えを相手に伝えられているか、相手が聞いてくれているかを意識させるため、自分の考えを事前に書いた文で読むのではなく、「見ずに、相手の目を見て、自分の言葉で発表する」。  
・話し合う際に気を付けることのキーワードを黒板に貼り、それを意識して話し合いをさせた。

#### 【3年】

・まずグループでの話し合いを行い、一人一人が自分の考えを進んで表現したり、考えを確認したりできるようにした。  
・全体対話では、教師が問い返しをしながら具体的に表現させたり、児童相互の表現を関連づけたりして一人一人の考えをつなげていき、根拠をもとに対話ができるようにした。  
・「グー（似ている）チョコ（付け加え）パー（他にありません）」で区分して挙手させ、意図的に指名ができるようにした。

#### 【4年】

・ペア・グループ等、場面にに応じて形態を変えながら、どの子も話し合いに参加できるようにした。  
・話し合う際、具体的な指示を行うように意識した。「廊下側のお友達から～」などの指示も活動にすぐ入れてよかった。

#### 【5年】

・高学年に必要な対話スキル・話すスキルを提示し、日常生活の中で意識して取り組むようにした。  
・説明力・対話力をそれぞれ6段階で表し、自分の説明力・対話力を自覚し、レベルアップを目指した。  
・グループの話し合い：自分の考えを説明する中で、自信をもたせた。分からないところを尋ねることで安心して全体での話し合いに臨めるようにした。

・全体での話し合い：友達の発言や教師の発問など、聞いたことをもとに自分の考えをもち、「つなげる」ことを意識させ、発言できるようにさせた。そのために、特に次のようなつなぎ発言を意識させることで、児童が主体的に学び、自ら学びとっていく学習にすることができるようになった。

#### 【6年】

・これまで学んできた話し方・聞き方を基盤とした高学年で目指したい学び合いのモデルを提示し、日常より意識させながら日々の学習に取り組みさせた。  
・お互いの考え方を説明する中で、何となく思っていたことが、より明確になったり、相手の考えを聞いてグラフの見方が広がったりすることができるように、話し合いを仕組んでいった。

### 学級力を高めるパワーアップタイム (PUT)

#### 【1年】

年度当初や朝の15分間程度での実施は難しい。  
※3学期 学級活動の時間等を使用し実施。  
○つないでつないでしりとり  
○フリートーク ○ビリビリパズル

聞き方	話し方
・おへそをむけて	・ともだちをみて
・さいごまで	・きこえることで
・へんじをして	・さいごまで

#### 【2年】

「むかい合う、ノートを指し示す、手を止める、目を見る、すぐ話す、うなづく」

○名探偵ゲーム  
犯人が思い浮かべることを各自1つの質問で当てる  
○ビリビリパズル  
1枚の絵を10～15のピースに破り、完成させる  
○つないでつないで3文字しりとり  
3文字の言葉のしりとり わからない人にはヒント  
○おぼえて描いてイラストゲーム  
イラストを3分間見た後、班で協力して完成させる  
○イメージマップを作る  
言葉から連想する言葉をつないでいく  
○フリートーク

#### 【3年】

○名探偵ゲーム ○ビリビリパズル  
○イメージマップを作ろう ○学級の課題について  
○班で協力しないとできないようなゲーム  
○簡単なディベート（班で2組に分かれ納得させる）  
「給食とお弁当」「宿題あり、なし」「犬とねこ」「きびしい親、甘い親」

#### 【4年】

○名探偵ゲーム ○ライディングペーパー  
○つなぎことばでさいころトーク  
○つないでものがたり ○ビリビリパズル  
○フリートーク ○イメージマップを作ろう  
○つないでつないでしりとり  
○おぼえて描いてイラストゲーム

#### 【5年】

○つないでつないで2文字・3文字しりとり  
○イメージマップを作ろう ○名探偵ゲーム  
○ライディングペーパー  
○おぼえて描いてイラストゲーム  
○フリートーク（さいころトーク）  
○つないでものがたり ○ビリビリパズル  
○5の1つってどんなクラス？  
(学級力アンケートをもとに)

○Aさんと同じで、私も～と考えました。  
○Bさんと少し似ていて、ぼくも～と考えました。でも、～が少し違います。  
○Cさんが言いたかったのは、～ということだと思います。  
○Dさんとは違って、私は～のように考えました。  
○Eさんは～と言ったけど、よくわかりませんでした。

#### 【6年】

○名探偵ゲーム ○フリートーク  
○ミニ討論会 ○つないでつないで一つの話  
○トップセールスマンを目指せ  
○ワードゲーム ○今日の気持ち  
○友達とつながりタイム

### 手だて② 教師の課題提示の工夫

#### 【1年】

#### 3つのかずのけいさん

・単元を通したストーリーによって、興味・関心を持続させた。3つの問題場面を1枚ずつ提示し、変量のみをカラーにした提示物を活用して、数の動きを明確にした。

#### 【2年】

#### 三角形と四角形

・前時で学習した、三角形と四角形それぞれの図形を見て定義を確認し、説明に使える「3本」「4本」「直線」「かこまれている」のキーワードを黒板に貼っておく。  
・曲線になっている、頂点がつながっていない（閉じていない）など、よく考えないとわからない図形を弁別する活動を通して、定義の理解を深めるようにする。

#### 【3年】

#### 【やまもも学級】 三角形

・長さによって色分けした4種類の磁石を使ってできた三角形を辺の長さに着目して分類させ、どのような根拠で分類したか説明し、話し合い、二等辺三角形や正三角形を定義づけていった。より可動的な磁石を用いて作業させることで、試行錯誤しながら意欲的に図形を作っているようにさせることができた。

#### 【4年】

#### 面積

・前時までの学習内容を掲示し、長方形・正方形の面積の公式と、面積は1cm<sup>2</sup>（単位量）の何個分で表すことができることを確認した。  
・問題提示の後、全体で複合図形の中から、長方形を見つけさせ、個人で考えるための見通しを持たせた。  
・それぞれの考えの中で、面積の公式を使っているところに着目させ、複雑な図形でも既習事項を使えば、面積を求められることに気づかせた。

#### 【5年】

#### 人文字

・導入場面で、千代小学校30周年記念の人文字写真を見せて興味関心をもたせた。次に、CHIYOの人文字を作るために何人くらい必要か予想させ、人数の求め方を考えるために、簡単にできそうな1から取り組ませた。そして、複雑な形の求め方を知るために、Uという文字で考えてみようといひかけ、やってみようという意欲を高めた。  
・簡単な場合から考えれば解けそうだと、いう見通しをもたせたり、具体物を操作したりすることで、問題場面をイメージしやすくするとともに、具体物から式へスムーズに移行できるようにした。

#### 【6年】

#### 資料の調べ方

・実際のソフトボール投げの記録や、男女別、年齢別人口グラフを提示することによって、児童が関心をもって課題解決することができるようになった。  
・年代が違ういくつかのグラフを提示することによって、「比較したい」「予測したい」という児童の課題解決意欲を高め、変化の様子や未来の予測をしつかりおこなうことができようようにした。

# 第1学年 算数科学習指導案

指導者 藤田 克子  
日高 璃奈  
伊藤 由香

## 1. 単元名「3つのかずのけいさん」

## 2. 指導観

○ 本単元は、3口の数の計算でも2口の計算の時と同じように計算できることを理解させ、1つの式に表すことによさに気づかせることがねらいである。また、繰り上がりのある加法や、繰り下がりのある減法の基礎となるもので、3口の数の計算技能の定着を図ることも大切なねらいである。

計算の学習は、技能の伸びに着目しがちである。しかし、演算決定までの筋道を立てた思考こそ、これから先の学習に直結するものである。そこで、本単元では、時間の経過に応じて増加や減少をする場面の拡張を通して、演算の意味理解を深めることを大切にする。

「 $a \pm b \pm c$ 」の3口の計算の仕方は、2口の場合と基本的には変わりなく、左から順に計算することで、答えを求めることができることを理解させる。また、3つの数量の関係をブロック操作や図を基に考えさせることで、演算決定や計算方法について話し合うときの根拠となり、互いに学び合うよさを実感させることもできる。

○ 児童はこれまでに、加法（合併と増加）と減法（求残、求差、求部分）の意味について、ブロック操作や「ふえる」や「へる」などの言葉を基に学習してきた。また、加法や減法の計算の仕方を考えるときには、数の合成・分解がもとになっていることに着目するなど、既習内容に帰着して考える方法は経験している。

本学級の児童は、「10までの加法・減法」「 $10 + 4$ 、 $14 - 4$ など、数の構成に基づく計算」について、ブロックや指を使いながら求めることができている。また、加法の立式についても（86.5%）が正確にできる。しかし、減法の立式になると、求残が73.0%、求差が57.6%と正答率が低くなる。また、計算の順番については、2口のときに増加の立式で順番の意味のあることは学習してきたが、ほとんどの児童が意識せずに立式したり計算したりしている。さらに、式からの問題作りに至っては、加法が38.4%、減法が57.6%である。それも、ヒントになる言葉を与えたうえでの作問だったので、自力作成はかなり難しい。

全体場で自分の考えを説明できる児童のほとんどは、学習内容を理解していることがわかっている。また、自分が発言したいときには、教師の発問や友達の話をおろそかになり、聞く力や態度が十分に身に付いていない。互いの考えのよさを学び合う力を育む必要性を強く感じる。

○ 指導に当たっては、2口ではなく3口であることを理解させるために、時間が継続している場面であることを着目させる。そこで、問題作りの際、「はじめに」「つぎに」「そのつぎは」という言葉を文の最初に付けさせることで、一連の続いた問題場面であることを意識づける。また、3つの問題場面を1枚ずつ提示することで、3つの駅で乗り降りするねずみの数量に着目させる。その際、加（減）数・被加（減）数などが動きと共に明確になるように、変量のみをカラーにした掲示物を提示する。そうすることで、増加や減少という数量関係が明確になり、問題作りや演算決定がしやすくなるを考える。

問題作りの際には、「のる」「おりる」「みんなで」「のこりは」のように立式に直結する言葉を、既習を生かして自ら言えるようにする。しかし、単に言葉だけに頼るのではなく、場面とブロック操作、数・式を結び付けることによって、3口でも加法や減法が成り立つことへと導く。また、計算の仕方を正しく理解させていくために、計算の手順を言葉で唱えさせながらブロックなどを操作させる活動を大切にする。例えば、 $10 - 8 + 6$ の場合、「10から8をひいて2、2と6で8」と唱えさせることで、今後の繰り上がりや繰り下がりのある加減計算に結びつける。計算の順序については、例えば、 $5 + 3 + 2$ で、加数同士（ $3 + 2$ ）を先に計算すると、問題場面と違うお話になることに気づかせる。それで、2口の計算と同様に、左から順に計算していけばよいことを理解させる。

児童が一番つまずくのが、加減混合の計算であると考えられる。そこで、「加法だけ」「減法だけ」のとき

と同様に、「のる」「おりる」という場面からねずみの動きを見取り、それを数図ブロックで確かめながら式に表せばよいことを理解させる。ただし、具体的な場面から立式をするという一方向だけではなく、式から問題場面を読み取るということも大切にすることで、演算の意味理解を深めることにつなげていきたい。適用問題では計算結果だけではなく、計算方法について説明させることで、3口の計算技能の確かな定着を図っていく。

◎ 主体的・協働的に学ぶための手立て

① 発達段階に応じた話し合い活動の充実

・低学年のコミュニケーションの基本は、まず人の話をよく聞く力を身につけるところから始まる。しかし、この時期の児童の特徴として、自分の思いが先に先に出てきてしまう。そこで、問題作りやブロック操作の説明をする時は、「聞き方・話し方のきりりさん」を目指すことを意識させる。そうすることで、共に学び合う基礎的・基本的な力を身に付けさせるようにする。その上で、自分の考えと同じか違うか（どこが同じでどこが違うか）を比べながら聞くようにさせる。

・隣同士（ペア）を基本とするが、全体の場でも同じ観点「聞き方・話し方」をもたせることで、友達の発表をよく聞いたりよく見たりする態度につながると考える。

② 教師の課題提示の工夫

・単元を通して、「ねずみのだいぼうけん ～チーズをめざして～」という四場面のストーリーを作ることによって、児童の興味・関心を持続させるようにする。

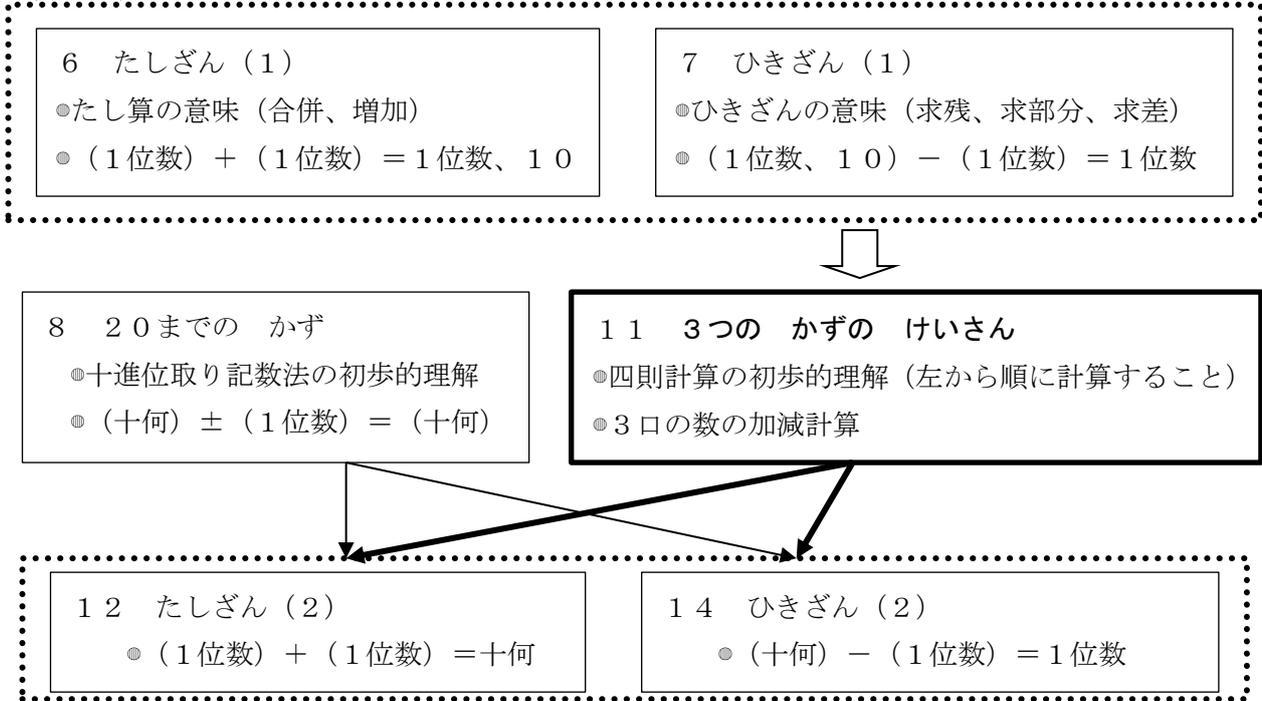
・3つの問題場面を1枚ずつ提示することで、3つの駅で乗り降りするねずみの数量関係に着目させる。その際、加（減）数・被加（減）数などが動きと共に明確になるように、変量のみをカラーにした提示物を使う。

・「おりました」「のってきました」など、演算決定につながるキーワードに着目させることで増減がわかり、立式に結び付けることができる。

3. 単元の目標

算数への関心・意欲・態度	○三つの数の加減計算の場面を、数の動きを意識しながら進んで一つの式に表して解決しようとする。
数学的な考え方	○三つの数について、場面を正しくとらえて演算決定をし、一つの式に表すことを考えるとともに、その計算の仕方を考えることができる。
数量や図形についての技能	○三つの数の加減計算の場面を、一つの式に表すことができる。 ○ $a + b + c$ ， $a - b - c$ ， $a - b + c$ ， $a + b - c$ の計算が正しくできる。
数量や図形についての知識・理解	○三つの数の加減計算の場面が、一つの式に表わせることを理解する。 ○ $a + b + c$ ， $a - b - c$ ， $a - b + c$ ， $a + b - c$ の式の意味と計算の仕方を理解する。

#### 4. 単元の系統

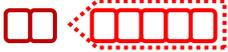
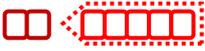


#### 5. 指導計画 (総時数4時間)

時	主な学習活動	主な評価規準と評価方法
1	3口の増加の問題を考え、1つの式 ( $a + b + c$ ) に表して計算をする。	【関】3口の数の増加・減少の場面を、数の動きを意識しながら1つの式に表して考えようとしている。 <ノート> 【考】問題作りや具体的な操作を通して3つの場面をとらえ、加数が2つの時でも1つの式に表すよさを考えている。 <発言、ノート>
2	3口の減少の問題を考え、1つ式 ( $a - b - c$ ) に表して計算をする。	【技】問題作りや具体的な操作を通して、減数が2つの時でも1つの式に表し、その計算ができている。 <発言、ノート>
3 (本時)	3口の「減少・増加」の問題を考え、1つ式 ( $a - b + c$ ) に表して計算をする。	【知】問題作りや具体的な操作を通して、加減が混合した3口の数の計算を、1つの式で表す場面を理解している。 <発言、ノート>
4	3口の「増加・減少」の問題を考え、1つ式 ( $a + b - c$ ) に表して計算をする。	【技】問題作りや具体的な操作を通して、加減が混合した3口の数を1つの式に表し、その計算ができている。 <発言、ノート>

6. 本時の学習

- (1) 日時 平成30年9月28日(金) 於1年2組教室
- (2) 主眼 3口の「減・増」の問題作りを通して、加法または減法だけの場面とは違い、加減が混合していても、これまでどおり1つの式に表して、計算できることを理解させる。
- (3) 準備 教師：場面絵(3枚)、掲示用ブロック  
児童：ブロック、ブロック板、ノート、適用問題プリント
- (4) 展開

主な学習活動	指導・支援上の留意点【評価規準】<評価方法>
<p>1. 3つの場面絵を基にした問題作りからめあてをつかみ、見通しを持つ。</p>  <p>はじめに <u>4ひきの</u>のっています。</p>  <p>つぎに <u>2ひき</u>おりました。</p>  <p>そのつぎに <u>5ひきの</u>のってきました。</p> <p>ねずみは <u>なんびき</u>になりましたか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>これまでのたしざんだけ、ひきざんだけとちがう。 ひきざんとたしざんがまざる</p>  </div>	<p>○「ねずみのだいぼうけん ～チーズをめざして～」の物語を通して、児童に興味関心を持たせる。</p> <p>○ねずみが乗った列車を想起させることで、場面絵から3つの数量の関係をつかみ、本時はどのような動きがあるかに着目させるようにしながら、問題作りをさせる。</p> <p>○3枚の絵を順番に見せることで、前時までの「増えるだけ」「減るだけ」の動きとは違い、「4ひき乗っている」「2ひき降りた」「5ひき乗ってきた」というように、「減って増える」場面であることに気付かせ、3つの数量の関係を確実に把握させる。</p> <p>○増加(減少)という同じ動きが2回続かないために、問いの言葉が「みんなで」や「のこりは」ではなく、「何匹になりますか」となることにも気付かせることで、本時の問題が、加減混合の問題であることを理解させる。</p> <p>○3つの数量の関係を、数図ブロックに置き換えてとらえることで、1つの式で表し、計算の仕方を考えていこうとする課題意識を持たせるようにする。</p> <p style="text-align: center;">4ひきのっている      2ひきおりた      5ひきののってきた</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>
<p>めあて    へってふえるときの    しきと    けいさんのしかたを    かんがえよう。</p>	
<p>2. 1つの式に表し、計算の仕方を考える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div> <p>しき <math>4 - 2 + 5 = 7</math> こたえ <u>7ひき</u></p>	<p>○数図ブロックと対応させることで、「減って増えた」場面を、「<math>4 - 2 + 5</math>」と1つの式に表すことができるようにする。</p> <p>○<math>4 - 2 = 2</math>、<math>2 + 5 = 7</math>と2つの式で表している児童には、前時までの学習を踏まえて、「減って増える」場合も、1つの式に表すことができることに気付かせる。</p> <p>【知】加減が混合した3口の数を1つの式に表し、その計算ができる。</p>

3. 式の表し方や計算の仕方について話し合う。

①ペアでの話し合い

②全体での話し合い

$4 - 2 + 5 = 7$

①  $4 - 2 = 2$

②  $2 + 5 = 7$

③ こたえは7

ひだりからじゅんにけいさんする

○自分の考えと似ているところや違うところに着目させながら、互いの考えを伝え合うようにさせる

○数図ブロックを動かしながら、式と計算の仕方について互いに説明させる。

○数図ブロックの動きから、「 $4 - 2 + 5$ 」という1つの式に表されることを理解させる。

○数式の「4」「 $-2$ 」「 $+5$ 」の意味を読むことで、3つの数量の関係を押さえ、式の意味を理解させる。

○「 $4 - 2 = 2$ 、 $2 + 5 = 7$ 」は、「 $4 - 2 + 5$ 」の計算方法であることにも気付かせるようにする。

○加減混合の式も左から順に計算するとよいことを理解させ、答えが7になることを押さえる。

○3口の式の計算の仕方について、復唱させるとともに、数名の児童にリプレイ発表をさせる。

4. 本時の学習のまとめをする。

まとめ へってふえるときも 1つのしきにかける。ひだりから じゅんに けいさんする。

5. 適用問題をする。

- ①  $8 - 6 + 5$
- ②  $10 - 8 + 6$
- ③  $10 - 9 + 4$
- ④  $18 - 8 + 2$

○計算の仕方について説明させる。

○「 $8 - 6 + 5$ 」の計算の仕方を発表させ、①  $8 - 6 = 2$ 、②  $2 + 5 = 7$ 、③答えは7になることを押さえる。

○②～④の計算式についても、計算の仕方を説明させるようにする。

【知・技】3口の計算方法を理解し、正しく計算できる。

《ノート・発言》

6. 本時の振り返りをする。

## 第2学年 道徳科学習指導案

指導者 赤瀬 加枝  
室田 万智子  
戸石川 順子  
大田 小也華  
藤井 哲哉

### 1 主題名 きまりのたいせつさ

内容項目 C-10 規則の尊重「約束やきまりを守り、みんなが使うものを大切にする」

資料名 「きまりのない学校」

### 2 指導観

#### ○ 教材観

本主題における内容項目C-10規則の尊重は「約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にする」と内容をとしている。児童が成長していく中で、いろいろな集団や社会の一員として、多くの人と関わりながら生活をしていく。集団におけるよりよい人間関係づくりのためには、その一員として、約束やきまりを守ることができるようにすることが大切である。

低学年の児童にとっての身近な集団は学校であり、学校という集団を通して、社会の基本的なルールを学ぶことになる。

この時期の子どもたちは、まだ自己中心性が強く、自分勝手な行動をとることが多い。そこで、身近な約束やきまりを取り上げることによって、それらはみんなが気持ちよく安心して生活するためであることを理解し、しっかりと守ろうとする意欲や態度を育てることが大切である。また、みんなで使う場所や物を進んで大切にしたいという判断力や態度を身に付けられるように指導することが必要である。

#### ○ 児童観

本学級の児童は、明るく活発で、休み時間には運動場で元気に遊んでいる。学校生活の中で、「廊下は走らない。」「雨の日は教室では静かに過ごす。」など学校のきまりがあって、守らなければならないことはわかっている。学級の中でも「チャイムは席について聞く。」「くつはそろえる。」などの約束を守ろうと努力している。しかし、低学年のこの時期は、「自分一人くらい守らなくてもいいかな。」「叱られなければ、大丈夫かな。」と、自分の思いだけできまりや約束を守らない児童がいる。また、きまりや約束を守らなかった友達に対しては腹を立てるが、自分がしている自分勝手な行動によって友達がどんな思いをしているかには気付いていない。きまりや約束の意義を理解していない児童が多い。

そこで、集団の中での約束やきまりは、みんなが気持ちよく安心して生活できるためにあるのだということを理解させ、約束やきまりを進んで守ろうとする意欲や態度を育てていきたい。

#### ○ 指導観

指導に当たっては、導入では、学校生活の中でどんなきまりがあるか、きまりについてどう思っているかを問い、本時の道徳的価値への方向付けを行う。

展開前段では、教材文「きまりのない学校」を読み、まず、きまりを息苦しいと感じているあきらの気持ちに共感させる。【人間理解】次に、きまりのない学校に行くことができたあきらが、「なんでもすきなことができる。」と喜んでいたのに、涙をためる場面を取り上げ、きまりがないことのマイナス部分から、きまりのあることのプラス部分について考えさせる。【価値理解】【他者理解】さらに、初めの場面でのあきらと、夢からさめたあきらを比較し、あきらの成長と今後の生活の仕方への質が高まったことに気付かせる。

展開後段では、きまりは、なんのためにあるのかを理解したうえで、自分たちの生活を振り返り、きまりや約束をどのようにとらえているか、またこれからどのように考えていきたいか道徳的実践意欲を高めていきたい。

終末は、学級、学校のみんがきまりをまもっている写真から、身近な地域のきまりについての映像を流し、きまりを守ることに對する道徳的心情や実践意欲を高めるようにする。

### ◎ 主体的・協働的に学ぶための手立て

#### ① 発達段階に応じた話し合い活動の充実

- ・対話が成り立つためには、安心して発言することができる学級の雰囲気が必要である。パワーアップタイムや学級会を通して、対話、協力を高める活動を位置付けている。
- ・中心場面では、ペアで考えを交流する。さらに全体で交流することで、きまりは何のためにあるのかを多面的、多角的に考えることができるようにする。

#### ② 教師の課題提示（教材提示）の工夫

- ・導入時に、本時の学習の考える視点を示すことで、何について考えるのか、問題意識をもたせるようにする。
- ・主人公あきらの顔の表情を心情の変化とともに掲示することによって、あきらの気持ちに共感し、また自分に置き換えて考えることができるようにする。

### 3 単元の目標

きまりがもつ意味について考えることを通して、みんなが使う物を大切に、約束やきまりを守ろうとする態度を養う。

目指す子どもの姿

「きまりがあるから、みんなが安全に、安心して気持ちよく生活することができる。」

「きまりを守らないこともあったけど、楽しく気持ちよく生活するために大切にしていこう。」

### 4 他の教育活動との関連

生活科：「みんなであそぼう まちのしせつ」

体育科：「鬼遊び」「水遊び」「マットを使った運動遊び」

学級活動：「雨の日のすごしかたを見直そう」「みんなが楽しめるお楽しみ会をしよう」

5 本時の学習

(1) 日時 平成30年11月28日(水) 第5校時 於 2年1組教室

(2) ねらい 「きまりのない学校」での生活の様子について話し合う活動を通して、きまりがあるから、みんなが気持ちよく安心して生活できることを理解し、しっかり守ろうとする意欲や態度を育てる。

(3) 準備 【掲示用】挿絵

【児童用】教科書、ワークシート

(4) 本時の展開

	学習の流れ	主な発問と子どもの心の動き	○指導上の留意点 ◆評価
導入	1. 千代小学校のきまりについて考える。	<p>千代小学校にはどんなきまりがあるか、知っていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>廊下を走らない。</li> <li>チャイム席</li> </ul> <p>学校のきまりって、何のためにあるのかな？</p>	<p>○千代小学校「楽しい学校生活を送るための約束」の一部を見せ、教材への関心を高める。</p> <p>○考える視点を示すことで、何について考えるのか、問題意識をもたせる。</p>
展開前段	<p>2 資料を読んで話し合う。</p> <p>(1)「どうしてきまりがあるのかな。」と言ったあきらさんの気持ちを想像し、話し合う。</p> <p>(2)「きまりのない学校」での生活の様子について話し合う。</p>	<p>あきらさんと同じように、きまりなんてなくてもいいって思ったことがありますか。</p> <p>【なければいい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>早く運動場にでたいから、廊下を走ってしまう。</li> <li>本をもどすのはめんどう。</li> <li>友達とずっと話したい。</li> <li>そうじはめんどくさい。</li> </ul> <p>【あるほうがいい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>廊下を走ったらけがをする。</li> <li>廊下を歩くとき話したら、周りの人の邪魔になる。</li> <li>そうじをしないと学校がきたなくなる。</li> </ul> <p>何でも好きなことができるのに、目になみだがたまってきたあきらさんは、どんなことを考えていたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>けんかばかりでおもしろくない。</li> <li>ブロックをこわされた。</li> <li>みんなが好きなことをするとぐちゃぐちゃになる。</li> <li>友達のことを考えてない。</li> <li>自分のことしか考えていない。</li> <li>けがをする人が出てくる。</li> </ul>	<p>○登場人物の様子などを捉えやすくするために挿絵やキーワードで視覚的支援をする。</p> <p>○ネームプレートを活用し、自分自身だけでなく、あきらの気持ちの位置と比べて考えさせる。自分の生活経験を発言するように促す。</p> <p>○きまりは「大切だ。」と思う反面、「めんどうでもある。」という気持ちに共感させる。</p> <p>○まず、涙をためた、あきらの気持ちをワークシートに書き、ペアで話し合う。友達の意見からさらに自分の考えを深めさせるようにする。</p> <p>○きまりのない学校のマイナス部分から、きまりがあることのプラス部分を考えさせる。</p> <p>◆登場人物の涙の理由を考えると、きまりがあることの意義について様々な視点から考えようとしている。</p> <p>(話し合い・発言)</p>

<p>展開後段</p>	<p>3 自分の生活を振り返ってこれからの生活について考える。</p>	<p><b>みなさんは、きまりがあってよかったと思っただけですか。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールを順番に使って仲よく遊べた。</li> <li>・そうじをして、教室がきれいになった。</li> </ul> <p><b>きまりについて、考えが変わった人はいますか？</b></p> <p><b>『学校のきまり』について考えたことや思っただけを書きましょう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きまりは面倒だと思っていたけど、今度からはきまりをちゃんと守ろう。</li> <li>・きまりを守らないと自分もみんなも困る。</li> <li>・きまりをまもるとみんなが気持ちよくなるのが分かった。</li> <li>・みんな仲良く安全にすごすためにきまりは大切。</li> </ul>	<p>○自分の生活を振り返り、きまりを守ってよかったと思ったこととその時の気持ちを発言させる。</p> <p>○ネームプレートを活用し、自分の気持ちと今後の生活の仕方への変化を考えさせる。</p> <p>○ワークシートに書かせる。</p> <p>書く活動を取り入れ『学校のきまり』の大切さやこれからの生活への生かし方について考えさせるようにする。</p> <p>○記述内容から、意図的指名をすることでねらいとする価値に対する自分の考えを深めさせる。</p> <p>◆きまりを守ることが、身近な社会である学校生活において、大切なことを自覚している。</p> <p>(ワークシート 発言)</p>
<p>終末</p>	<p>4. きまりをまもっている映像を流す。</p>	<p>みんなの普段の様子を見てみましょう。</p> <p>学校の中だけじゃなくてきまりは町の中にもあるね。</p> <p>みんな、きまりを守ろうとしているね。</p> <p>みんな笑顔になるね。</p>	<p>○きまりや約束を守っている自分たちの写真を見て、きまりを守ることに對する道徳的心情を高めていく。</p>

### 第3学年 算数科学習指導案

指導者 堂本 直美  
岩田 義史  
勝原 睦恵

#### 1 単元名「三角形」

#### 2 指導観

○ 本単元は、2年生で3本の直線で囲まれている形を三角形と定義したことをさらに進めて、辺の長さに着目して三角形の特徴をとらえ、2辺の長さが等しい三角形が二等辺三角形、3辺の長さが等しい三角形を正三角形ということを理解させていくことをねらいとしている。また、定規やコンパスを用いた作図、二等辺三角形や正三角形の観察、紙を切り抜いてできた三角形を折ったり敷き詰めたりする活動を通して、二等辺三角形と正三角形についての理解を深めたり、平面図形の広がりや図形の美しさを感じたりすることもねらいとしている。

○ 本学級の児童（男子13人、女子13人）は、算数の学習において、自力解決の場面で、既習事項を用いて考えを表現しようとする姿が多く見られる。言葉や図、式などを基に、自分の考えの根拠をもって説明することができる児童は数人いるが、どう言ってよいか分からない児童も10名ほどいる。少しずつ、自分の考えを筋道立てて考えたり説明したりできるようになっている段階である。本単元に関わるレディネステストにおいては、三角形や四角形（正方形・長方形）・直角三角形の定義や性質については80%以上の児童が理解している。また、1学期の「円と球」の単元で、コンパスで円をかいたり、長さを写し取る道具として、折れ線の長さを直線上に写し取って長さ比べをしたりしているが、技能面では不十分な児童が15%ほどいる。

○ 指導に当たっては、導入では、長さによって色分けした4種類の磁石を使ってできた三角形を辺の長さに着目して分類させ、どのような根拠で分類したか説明し、話し合い、二等辺三角形や正三角形を定義づけていく。

そして、コンパスを使った作図方法を考えたり、円と半径を使ってかいたり、色紙を使って作ったりする活動やできた三角形の2辺や3辺が等しくなるわけを説明する活動を通して、二等辺三角形や正三角形の定義の理解を確かなものにしていく。

角の指導では、角の大きさが同じで、辺の長さが違う2つの角を重ねて比べることで、角の大小は、「2辺の開きぐあい」で決まることを理解させる。二等辺三角形や正三角形をかいて切り取り、角が重なるように折って大きさを比べることで、これらの三角形の角にかかわる性質について理解することができるようにする。

二等辺三角形や正三角形の定義・性質を学習した後、図形を弁別したり、身の回りから図形を見付けたりする図形見付けの活動を設定し、図形の意味の理解を深めていく。

さらに、合同な二等辺三角形や正三角形を敷き詰める活動を通して、これらの図形でも平面が敷き詰められることを理解させる。そして、敷き詰められた図形を観察して、図形の見方や感覚を豊かにしていくようにする。

#### ◎ 主体的・協働的に学ぶための手立て

##### ① 発達段階に応じた話し合い活動の充実

・めあてに向かって自分の考えをもつことができるようにするために、三角形を作る・観察する・操作する・作図するなどの活動を積極的に取り入れていきたい。言葉による説明の苦手な児童も、自分が主体的に活動したことであれば、自分の考えをもちやすくなり、グループや全体での対話で、その考えを深めていけると考える。

・図形の構成要素（「辺」「頂点」「角」「円」「半径」など）の言葉を正しく使って説明できるよう、これらの用語を教室に掲示しておく。また、発表の表現様式やキーワードも掲示しておき、説明が苦手

な児童への一助とし、自分の考えを表現する力を伸ばしていく。

- ・個の考えを深めるために、まずグループでの話し合いを行い、一人一人が自分の考えを進んで表現したり自分の考えを確認したりできるようにしたい。その際、対話の視点を明確にし、自分の考えと友達との考えの共通点や相違点を比べながら意見交流ができるようにする。また、分からないことはきちんと質問するようにさせる。
- ・全体対話では、教師が問い返しをしながら児童の考えを具体的に表現させたり、児童相互の表現を関連づけたりして一人一人の考えをつなげていき、根拠をもとに対話ができるようにしていく。そして、互いの考えを伝え合ったり、質問し合ったりなど、友だちとの意見交流により自分の考えを捉え直したり、新しい見方や発見をしたりできるようにしたい。
- ・学級会やパワーアップタイムの時間を通して、安心して発言できる学級の雰囲気作りに取り組みつつある。

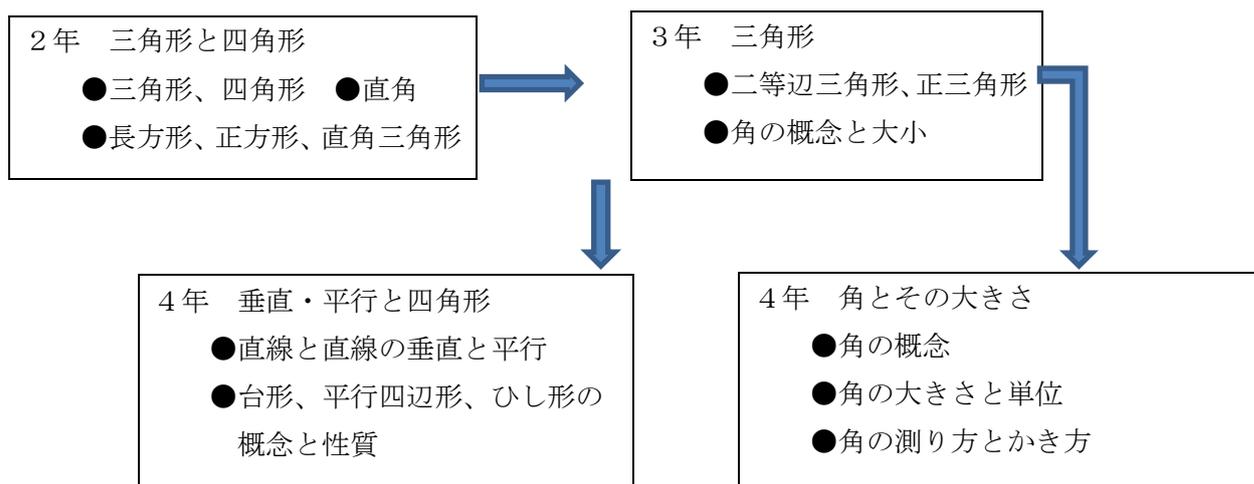
## ②教師の課題提示の工夫

- ・導入では、6cm（赤）・8cm（黄）・10cm（青）・12cm（緑）の磁石をそれぞれ4本ずつ用意し、三角形を作らせる。具体物を操作させることで、この単元の学習は、2学年時に学習した三角形の続きだと想起させる。より可動的な磁石を用いて作業させることで、試行錯誤しながら意欲的に図形を作っているようにさせたい。「同じ長さの辺が何本あるか」に目を付けるという分類の観点を明らかにすることで二等辺三角形と正三角形の定義へとつなげたい。

## 3 単元の目標

算数への関心・意欲・態度	身近にある基本的な形（三角形）を分類しようとする。
数学的な考え方	辺の長さによって三角形を分類して考える。定義をもとに、二等辺三角形や正三角形について説明できる。
数量や図形についての技能	コンパスを使って、二等辺三角形、正三角形をかくことができる。
数量や図形についての知識・理解	二等辺三角形、正三角形の定義や性質が理解できる。

## 4 単元の系統



5 指導計画（総時数7時間）

時	学習活動	主な評価規準と評価方法
1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・磁石を使って、いろいろな三角形をつくり、辺の長さに着目して分類する。</li> <li>・分類を通して、二等辺三角形と正三角形を知る。</li> </ul>	<p>【考】分類の仕方を考えることができる。          &lt;ホワイトボード・発言&gt;</p> <p>【技・知】辺の長さに目をつけて、二等辺三角形と正三角形を弁別する。また、そのわけをいうことができる。          &lt;観察・活動・ノート・発言&gt;</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンパスを使って、二等辺三角形と正三角形を作図する。</li> </ul>	<p>【考・技】二等辺三角形と正三角形の定義や性質をもとに作図の方法を考え、かくことができる。          &lt;発言・ノート&gt;</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円と半径を使ってかいた三角形は二等辺三角形になるわけを説明する。</li> <li>・円や色紙を使って、二等辺三角形や正三角形をつくる。</li> <li>・身の回りから、二等辺三角形や正三角形の形をしたものをみつける。</li> </ul>	<p>【考・知】二等辺三角形になるわけを考え、説明することができる。&lt;ノート・発言&gt;</p> <p>【技】紙を切って、二等辺三角形と正三角形をつくることができる。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角定規のかどの形と同じ形を調べる。</li> <li>・三角定規の角の大小比較をする。</li> </ul>	<p>【技】2つの辺の開き具合に目をつけて、角の大小比較ができる。&lt;活動・ノート&gt;</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形の角が重なるように折って、大きさを比べる。</li> </ul>	<p>【考・技】操作を通して、二等辺三角形の3つの角の大きさについて比べられる。          &lt;観察・ノート&gt;</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正三角形や二等辺三角形を敷き詰め、模様作りをする。</li> <li>・正三角形や二等辺三角形の敷き詰め模様からいろいろな形をみつける。</li> </ul>	<p>【関】敷き詰め方を考えながら作業しようとしている。&lt;観察&gt;</p> <p>【考】正三角形の定義や性質から正三角形になるわけを説明することができる。&lt;発言&gt;</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たしかめましょうをして自己評価をする。</li> </ul>	

6 本時の学習

(1) 日時 平成30年10月15日(月) 6校時 於3年1組教室

(2) 主眼 磁石を使って作った三角形を辺の長さに着目して仲間分けする活動を通して、二等辺三角形や正三角形の意味を理解することができるようにする。

(3) 準備

掲示用磁石、適用問題プリント <教師>

磁石(4種類)、ホワイトボード、ホワイトボード用マジック、コンパス <児童>

(4) 展開

主な学習活動・内容	○指導・支援上の留意点【評価規準】<評価方法> ★特別な教育的支援を要する児童への特に困難とされる場面での支援のポイント ◎スクールプランの授業改善にかかる達成目標に向けた手だて
<p>1 問題を知り、めあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>辺の長さに目をつけて、三角形を3つのなかまに分けましょう。</p> </div> <p>・分けるための見通しをもつ。</p>	<p>○ 磁石の色は、「長さ」によって異なっていることを確認する。</p> <p>○ 向きが違うもの、大小の違いは同じ仲間であることを確認する。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>めあて 辺の長さに目をつけて、三角形の分けかたを考えよう。</p> </div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>個人思考</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・磁石で作った三角形を仲間分けする</li> <li>・3つの辺の長さに目をつけて考える。</li> <li>・図や言葉などを用いて、考えたことを表現する。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>&lt;予想される児童の反応&gt;</p> <p>A児:(3本とも同じ、2本が同じ、3本とも違う)に分けられる。</p> <p>B児:(3本とも同じ、違う辺が入っている)に分けられる。</p> </div>	<p>○ 同じ長さの磁石だけで作っている児童には、数種類の磁石を組み合わせでできないか声をかけ、支援する。</p> <p>★ <b>仲間分けすることができない児童に対しては、「とがった」「平べったい形」など観点としては妥当ではないが、辺の長さに関係していることを意識させるきっかけになると思われる言葉を与えながら助言する。</b></p> <p>○ 仲間分けができた児童には、分けた理由や考えが説明できるようにさせ、しるしや簡単な言葉でホワイトボードに記入させる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>グループでの話し合い</b></p> <p>・どう仲間分けしたか確認する。どうしてそう分けたか、自分の考えを説明する。友達の考えを聞き、共通点・相違点を見つける。</p> </div>	<p>○ 具体物を使いながら、その根拠を明らかにしながら説明させる。</p> <p>○ 自分の考えと同じところ・違うところに気を付けながら友達の発表を聞かせることで自分の考えを深める。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>全体での話し合い</b></p> </div>	<p>◎話し合いで出された考えを整理・分類しながら、構造的に板書したり、同じ辺の長さがいくつあるかを確認したりして、分け方や分けた理由を説明することができるようにする。</p> <p><b>【考】</b> 辺の長さに着目して仲間分けし、その理由を説明できる。&lt;発言・ホワイトボード&gt;</p>

<p>2 二等辺三角形と正三角形という名前を知り、性質をまとめる。</p>	<p>○ 辺の長さに視点を当てて話し合い、同じ長さの辺が何本使われているかで「3つの辺の長さがみんな同じ」「2つの辺の長さが同じ」「辺の長さがみんなちがう」の3つの仲間分けができることを確認する。</p> <p><b>【知】</b> 二等辺三角形や正三角形の意味を理解する。</p> <p style="text-align: right;">＜発言・行動観察＞</p>
<p>・ 2つの辺の長さが等しい三角形を二等辺三角形という。</p> <p>・ 3つの辺の長さがみんな等しい三角形を正三角形という。</p>	
<p><b>まとめ</b> 二等辺三角形、正三角形、三角形の3つに分けられる。</p>	
<p>3 適用問題をする。</p>	<p>○ コンパスを使って調べると便利なことを想起させ、予想してから調べるようにさせる。</p> <p>○ 同じ長さの辺に印をつけ、二等辺三角形や正三角形であると判断した理由を明確にさせ、定義を言葉で確認させるようにする。</p> <p><b>【技】</b> 二等辺三角形や正三角形の定義をもとに弁別することができる。また、その理由を辺に着目し、書くことができる。</p> <p style="text-align: right;">＜活動・プリント＞</p>
<p>4 本時の振り返りをする。</p>	

## 第4学年 外国語活動学習指導案

指導者 一木 悦子  
飯田 麻里  
野尻 陵平  
ALT Natalia

### 1 単元名 Unit 2 Let's play cards. 「すきな遊びをつたえよう」

#### 2 指導観

- 本単元は、世界と日本の遊びの共通点と相違点を通して、多様な考え方があることに気付くとともに、さまざまな動作、遊びや天気の違い、遊びに誘う表現に慣れ親しみ、好きな遊びについて尋ねたり答えたり、自分の好きな遊びに誘ったりすることをねらいとしている。これまでの外国語活動を通して、児童は簡単な英語で自分の思いを伝え合うことには、少し慣れてきている。本単元では、題材を児童の興味・関心が高い「遊び」としているため、児童が「言ってみよう」「聞いてみたい」という思いをより高めることができると思う。
- 本学級の児童（男子13人、女子13人、計26人）は、好奇心旺盛で、新しい学習を楽しみにしている児童が多い。外国語活動についてアンケートを行ったところ、下記のような結果であった。（1が最も肯定的な評価）

質問項目	1	2	3	4
英語の学習は好きですか。	7	14	4	1
英語の学習は楽しいですか。	11	14	1	0
アクティビティでは進んで伝え合おうとしていますか。	1	13	8	4
相手の話す英語を、最後まで一生けんめい聞いていますか。	7	16	3	0
もっと英語を話せるようになりたいですか。	14	10	0	2

この結果を見ると、児童は英語の学習が好きで楽しいと感じていることが分かる。しかし、伝え合う活動については、苦手だと感じている児童が多い。また、今までの外国語活動について覚えていることを記述式でアンケートしたところ、「フルーツバスケット」や「ばくだんゲーム」など、活動名をあげる児童がほとんどで、アクティビティで取り上げた英単語やセンテンスをあげた子は、25人中7名だった。英語は楽しい。ALTとの関わり合いも楽しい。最近は、学んだ英語表現で休み時間に担任に質問してくるなど、少しずつ外国語活動に対しての意欲は高まりつつある。しかし、楽しいゲームの記憶が多く積み重ねられ、せっかく学んだ英語表現を使ったコミュニケーションについては苦手意識をもつ児童が多いことが課題だと考える。アクティビティの際に個別に支援が必要な児童も数名いる。

- 指導にあたっては、第1時では、世界のさまざまな国の遊びの映像資料の視聴を通し、世界の子供たちと自分たちの生活の共通点や相違点に気付き、多様性を受け止める素地を育てたい。第2、3時では、児童が大好きなチャンツや歌を通して、遊びや天気の違いにしっかりと慣れ親ませた後に、自然に遊びに誘う表現に出会わせるようにする。また、本単元の最後では、一番人気のあった遊びを実際に学級ですることを目的に、学級のみんなで楽しみたい遊びのインタビューをすることで、より児童の意欲を高めていきたい。そして、児童の自信や前向きな気持ちに繋がるよう、声かけや励ましを継続して行うようにする。

◎ 主体的・協働的に学ぶための手立て

① 発達段階に応じた話し合い活動の充実

- ・アクティビティを充実させるための手立てを提示し、学習中、いつも見えるところに掲示物を貼っておく。



- ・特にモデルとなるような活動ができている児童を取り上げ、模倣による話し合い活動のレベルの底上げを図る。
- ・活動中、巡視しながら称賛することで、活動への意欲付けを図る。
- ・対話が成り立つためには、安心して発言できる雰囲気が必要であるので、パワーアップタイムの時間を使い、協力・対話を高める活動を中心に行う。
- ・活動の流れをパターン化し、児童に見通しをもたせるようにする。

② 教師の課題提示の工夫

- ・学習の始めには、Worm up として既習のチャンツや歌でリラックスさせる。また、前時の振り返りを丁寧に行い、「今日もできそうだ!」「今日も楽しみだな。」という意欲を高めさせる。
- ・アクティビティの際には、デモンストレーションを丁寧に行い、活動がスムーズに進むようにする。ALT の指示の後、「ゆっくり」「はっきり」「繰り返し」ジェスチャーで指示を補足する。

3 単元の目標

- 世界と日本の遊びの共通点と相違点を通して、多様な考え方があることに気付くとともに、さまざまな動作、遊びや天気の違い、遊びに誘う表現に慣れ親しむ。(知識及び技能)
- 好きな遊びについて尋ねたり答えたりして伝え合う。(思考力、判断力、表現力等)
- 相手に配慮しながら、友達を自分の好きな遊びに誘おうとする。(学びに向かう力、人間性等)

4 言語材料

- How's the weather? It's [sunny/rainy/cloudy/snowy]. Let's(play cards). Yes.let's. Sorry. Stand up./Sit down./Stop./Walk./Jump./Run./Turn around.
  - 天気(weather, sunny, rainy, cloudy, snowy), 状態・気持ち(hot, cold), 動作(stand, sit, stop, jump, turn, walk, run, look, put, touch, play), up, down, on, around, left ,let's, today, 身体の部位(hand, leg), 遊び(tag ,jump, rope, bingo, game), outside, inside, 衣類(shirt, shorts, sweater, pants, boots, cap)
- 【既出】挨拶・自己紹介, I like(blue). Do you like(blue)? Yes,I do./No,I don't. What(sports)do you like?  
状態・気持ち, how, is, it, right, 身体の部位, 色, スポーツ

5 関連する学習指導要領における領域別目標

聞くこと	ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。
話すこと (やり取り)	イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。

6 指導計画と評価計画（総時数 3 時間）

時	目標（◆）と主な活動（【 】、○）【 】=誌面化されている活動	評価の観点（方法）
1	<p>◆世界と日本の遊びの共通点と相違点を通して、多様な考え方があることに気付くとともに、天気や遊び、衣類等の言い方を知る。</p> <p>○指導者の質問に答え、天気の違いに出会う。</p> <p>○歌 Hello Song（3年 Unit 2）</p> <p>【Let's Chant】How's the weather? p.6</p> <p>○どんな場面かな？</p> <p>・児童用テキストの誌面 p.6,7 を見て、日本各地の登場人物が何をしている様子かを考えて答える。</p> <p>【Let's Watch and Think 1】 p.6,7</p> <p>・子供たちの遊びの様子を視聴したり、ALT の話を聞いたりして、自分たちの遊びと世界の子供たちの共通点や相違点を発表する。</p> <p>【Let's Listen 2】 p.8</p> <p>・衣類等の言い方を知る。</p> <p>・音声を聞いて天気と衣類を線で結ぶ。</p> <p>○歌 Goodbye Song（3年 Unit 2）</p>	<p>◎世界と日本の遊びの共通点と相違点を通して、多様な考え方があることに気付いている。〈行動観察・振り返りカード分析〉</p>
2	<p>◆遊びや天気の違いに慣れ親しみ、好きな遊びについて尋ねたり答えたりして伝え合う。【本時】</p> <p>○天気について指導者の質問に答える。</p> <p>○歌 Hello Song（3年 Unit 2）</p> <p>【Let's Chant】How's the weather? p.6</p> <p>・天気の違いに慣れ親しむ。</p> <p>【Let's Listen 1】 p.8</p> <p>・音声を聞いて天気を聞き取り、登場人物とイラストを線で結ぶ。</p> <p>○Activity</p> <p>・天気を尋ねたり、遊びに誘ったりして、友達とやり取りをする。</p> <p>○Let's Sing p.6</p>	<p>◎天気や遊びを聞いて、線で結んでいる。〈行動観察・記述分析・振り返りカード点検〉</p> <p>◎天気を尋ねたり、遊びに誘ったりする表現を使って、やり取りをしている。〈行動観察・振り返りカード点検〉</p>

	<p>Rain, rain, go away Eeny, meeny, miny, moe One little finger</p> <p>○歌 Goodbye Song (3年 Unit 2)</p>	
3	<p>◆相手に配慮しながら、友達を自分の好きな遊びに誘おうとする。</p> <p>○天気について指導者の質問に答える。</p> <p>○歌 Hello Song (3年 Unit 2)</p> <p><b>【Let's Chant】 How's the weather? p.6</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天気の言い方に慣れ親しむ。</li> </ul> <p><b>【Let's Listen 3】 p.9</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界のさまざまな天気について分かったことを発表する。</li> </ul> <p><b>【Activity】 p.9</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室内を歩いて回って友達とペアになり、挨拶をし、指導者が指定した天気に応じて、好きな遊びを尋ね、遊びに誘う。</li> <li>・天気に応じて、どんな遊びをしたい友達が何人いたかを表に書く。</li> </ul> <p>○Let's Sing p.6</p> <p>Rain, rain, go away Eeny, meeny, miny, moe One little finger</p> <p>○歌 Goodbye Song (3年 Unit 2)</p>	<p>◎天気を聞いたり言ったりしている。〈行動観察・振り返りカード点検〉</p> <p>◎相手に配慮しながら、遊びについて尋ねたり、自分の好きな遊びに誘ったりしている。〈行動観察・振り返りカード点検〉</p>

7 本時の学習 (2 / 3)

- (1) 日時 平成30年9月12日(水) 5校時 於 4年3組教室
- (2) 目標 天気の言い方に慣れ親しみ、好きな遊びについて尋ねたり答えたりして伝え合う。
- (3) 準備 児童用テキスト、教師用カード(遊び、天気)、児童用天気カード、デジタル教材、振り返りカード
- (4) 本時の展開

時間	児童の活動	指導者の活動 ◎評価〈方法〉	準備物
6分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶をする。</li> <li>○天気について指導者の質問に答える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体に挨拶をして、個別にも挨拶をする。</li> <li>・窓の外をさして、How is the weather?と尋ね、Sunny? Rainy? Cloudy? Snowy? と言いながらジェスチャーで示すとともに、それらの教師用絵カードを見せる。</li> <li>・児童の答えやつぶやきに応じて、It's sunny / rainy / cloudy / snowy. と紹介する。さらに、Do you like sunny / rainy / cloudy / snowy days? と尋ね、児童と天気を話題にやりとりをする。</li> </ul>	<p>教師用カード (天気)</p>

	<p>○歌 Hello Song (3年 Unit 2)</p> <p><b>【Let's Chant】 How's the weather? p.6</b></p> <p>・ 天気の違いに慣れ親しむ。</p>	<p>・ 児童と一緒に歌う。</p> <p>・ 動作をつけながら、児童と一緒にチャンツを言う。</p>	デジタル教材
7分	<p><b>【Let's Listen 1】 p.8</b></p> <p>・ 音声を聞いて天気を聞き取り、登場人物とイラストを線で結ぶ。</p>	<p>・ 聞き取れた言葉を発表させる。</p> <p>・ 聞き取れなかった言葉や長い文章は、もう一度聞かせて内容を確認する。</p> <p>◎天気や遊びを聞いて、線で結んでいる。〈行動観察・記述分析・振り返りカード点検〉</p>	デジタル教材 児童用テキスト
15分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>めあて 天気をたずねたり、遊びにさそったりする表現を使って、友達とやりとりをしよう。</p> </div> <p>○キーワードゲーム</p> <p>○Activity</p> <p>・ 天気を尋ねたり、遊びに誘ったりして、友達とやり取りをする。</p>	<p>・ アクティビティで使う単語について、ゲームを通して慣れ親しませる。</p> <p>・ ペアで天気をたずね合い、sunny, rainy, cloudy等の天気の日に適したと思う遊びを互いに提案するように言う。隣、前後、斜めで繰り返し行わせる。</p> <p>◎天気を尋ねたり、遊びに誘ったりする表現を使って、やり取りをしている。〈行動観察・振り返りカード点検〉</p>	教師用カード(天気, 遊び) 消しゴム(児童2人に1個) 児童用カード(天気)
10分	<p><b>【Let's Chant】 How's the weather? p.6</b></p> <p>○Let's Sing p.6</p> <p><b>Rain, rain, go away</b></p> <p><b>Eeny, meeny, miny, moe</b></p> <p><b>One little finger</b></p>	<p>・ 児童と一緒にチャンツを言ったり、歌ったりする。</p> <p>・ <b>One little finger</b> は指導者が動作を付けながら歌う。一緒に言えるところだけを言ってみようと呼びかけ、児童も一緒に動作を付けて歌を楽しませる。</p>	デジタル教材 ワークシート (Unit 2-2~2-4)
5分	<p>・ 本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。</p>	<p>・ 児童の英語を使おうとする態度でよかったところについて称賛する。</p>	振り返りカード
2分	<p>○歌 Goodbye Song (3年 Unit 2)</p> <p>・ 挨拶をする。</p>	<p>・ 児童と一緒に歌う。</p> <p>・ 挨拶をする。</p>	デジタル教材

# 第5学年 算数科学習指導案

指導者 篠田 千春  
中村 早央里

## 1 単元名「人文字」

### 2 指導観

○ 本単元は、第3学年の「間の数」の発展として位置付けられている。「間の数」の学習では、等間隔に植えられた植木の両端の木の間の長さを、「間の数+1=木の数」という決まりを帰納的に見つけて問題解決している。人文字の問題では、植木が人に変わり、直線的だった植木の並びが、複雑な文字の形に変わる。文字になることで、解決の糸口が見えにくくなるため、単純化して考えるという必然性が生まれる。ここでは、「人文字」を通して、「簡単な場合から考える」という思考法を育成することをねらいとしている。

○ 本学級の児童（男子18人・女子17人）は、算数の学習は好きですか、という問いに対して、7割の児童が「好き」「まあまあ好き」と答えている。一方で、自分の考えを説明することに抵抗を感じている児童が半数いることが分かった。算数が好きな児童の中にも、説明することは苦手と感じている児童もあり、自分の考えを友達に伝えたり、説明したりすることが課題となっていることが分かった。原因として、「間違っていたら恥ずかしい」「どのように言えばよいか分からない」「たくさんの人の前で話すのが苦手」という意見が多く、友達に自分の考えを説明したり、みんなの前で話したりするという経験を積む必要があると同時に、自分や友達のよさを認め合い、友達と共に学び合う楽しさを味わわせる必要があると考える。また、自分の話を聞いてもらえ、間違っても大丈夫と思える温かい雰囲気の中で学級づくりをすることも課題である。

○ 指導に当たっては、導入場面で児童の興味関心を高めるために、CHIYOの人文字の写真を見せ、何人くらいで作ったのだろうかと問う。そして、すぐに作れそうなI（直線）から考え、既習事項を確かめながら「間の数+1=子どもの数」という決まりに気付かせる。さらに、見つけた決まりが他の場合でも使えるのかを確かめ、複雑な形でも決まりが使えるのかという問いをもつようにする。

複雑な形の場合には、まず、図、式、言葉など、自分が納得できる方法で表現するようにする。次に、グループで自分の考えを説明し合ったり、全体で話し合ったりすることを通して、直線的に伸ばして考えれば、はじめの場合と同じ決まりが使えることを理解できるようにしたい。

2時目では、1時目よりやや複雑な形の問題に取り組ませる。ここでもやはり、簡単な形や直線に直せば解くことができるという思考法の良さに気付かせたい。

### ◎ 主体的・協働的に学ぶための手立て

#### ① 発達段階に応じた話し合い活動の充実

- ・高学年に必要な対話スキル・話すスキルを提示し、日常生活の中で意識して取り組むようにする。
- ・説明力・対話力をそれぞれ6段階のレベルで表し、自分の説明力・対話力を自覚し、レベルアップを目指すようにする。
- ・グループの話し合いでは、自分の考えを説明する中で、自信をもたせたり、分からないところを尋ねたりすることで安心して全体での話し合いに臨めるようにすることをねらいとする。全体での話し合いでは、友達の発言や教師の発問など、聴いたことをもとに自分の考えをもち、「つなげる」ことを意識させ、発言できるように指導する。そのために、発言の仕方として、「〇〇です、どうですか。」「いいです。」で、終わりではなく、学習スキルの中から特に次の

ようなつなぎ発言を意識させることで、児童が主体的に学び、自ら学びとっていく学習にすることができるようになる。

つなぎ発言の例
○「 <u>Aさんと同じで</u> 、私も～～と考えました。」
○「 <u>Bさんと少し似ている</u> 、ぼくも～～と考えました。でも、～が少し違います。」
○「 <u>Cさんが言いたかったのは</u> 、～ということだと思います。」
○「 <u>Dさんに付け加えます</u> 。ぼくは～」
○「 <u>Eさんとは違って</u> 、私は、～のように考えました。」
○「 <u>Fさんは～と言ったけど</u> 、よくわかりませんでした。」

- ・パワーアップタイムの時間を使い、学級の土台作りをする。対話が成り立つためには、安心して発言できる雰囲気が大切であることから、4月・5月は、協力・対話を高める活動を中心に取り組むようにした。

(つないでつないで2文字・3文字しりとり イメージマップを作ろう 5の1ってどんなクラス？ (学級力アンケートをもとに))

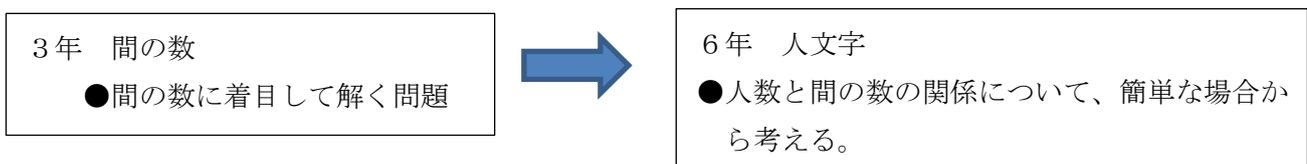
#### ②教師の課題提示の工夫

- ・まず導入場面では、千代小学校30周年記念の人文字写真を見せて興味関心をもたせる。次に、CHIYOの人文字を作るために何人くらい必要か予想させ、人数の求め方を考えるために、簡単にできそうなIから取り組ませる。そして、複雑な形の求め方を知るために、Uという文字で考えてみようという問いかけ、やってみようという意欲を高める。
- ・簡単な場合から考えれば解けそう、という見通しをもたせたり、具体物を操作したりすることで、問題場面をイメージしやすくするとともに、具体物から式化へスムーズに移行できるようにする。

### 3 単元の目標

算数への関心・意欲・態度	人数と間の数の関係について、簡単な場合から複雑な場合を考えることに興味をもつ。
数学的な考え方	人数と間の数の関係について、簡単な場合から複雑な場合を考えることができる。
数量や図形についての技能	人数と間の数の関係について、複雑な形を単純な形になおすことができる。
数量や図形についての知識・理解	人数と間の数の関係について、単純な形で考えたことが複雑な形でも使えることを理解する。

### 4 単元の系統

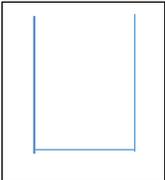


5 指導計画（総時数2時間）

時	学習活動	主な評価規準と評価方法
1 (本時)	変形すると1本の直線になる場合の人数と間 数の関係を考える。	【考】簡単な場合で調べ、数量の関係を見つけてい けば、問題解決できることがわかる。  ＜発言・ノート＞
2	枝分かれする場合や、環状になる場合がある場 合の人数と間数の関係を考える。	【知】簡単な場合で調べた数量の関係をを使って、他 の場合でも問題解決できる。  ＜発言・ノート＞

本時の学習

- (1) 日時 平成30年5月30日（水） 6校時 於5年1組教室
- (2) 主眼 図・式・言葉を使って考える活動を通して、複雑な形は一本の直線に変形して考えると決まりに  
あてはめて人数を求めることができることが分かるようにする。
- (3) 準備 人文字の写真 掲示用問題 児童用問題用紙 発表ボード 棒マグネット
- (4) 展開

主な学習活動	○指導・支援上の留意点【評価規準】＜評価方法＞
<p>1. 課題をつかみ、めあてを確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「CHIYO」の人文字の写真を見て、何人ぐら いで作ったのか考える。</li> <li>・Iの字をつくるとき、何人並ぶか考える。</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">全体での話し合い（直線の場合を考える）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10mには10人か11人か。</li> <li>・「間の数（長さ）+1=人数」という決まりを見 つける。</li> <li>・Uの字をつくるとき、何人並ぶか考える。</li> </ul>  <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">めあて Uのときは、何人ならばか、くふうして考えよう。</p>	<p>○人文字の写真を見せることで、問題場面の理解を図り、学習意欲を喚起する。</p> <p>○まず単純な「I」の字（直線）を取り上げ、「1メー トルおきに並ぶ」という条件をつかませる。その後、 Iの字が10メートルであることを知らせ、何人並ぶ か図を見て想像させる。</p> <p>○ホワイトボードに数直線図を提示し、それを根拠とし て意見を言わせるようにする。</p> <p>○ほかの直線の問題をいくつか提示し、「どうしてもすぐ にわかるの？」と問うことで、「間の数（長さ）+1 =人数」という決まりが成り立つことを引き出す。</p> <p>○さらにいくつか直線の問題を提示後、Uの字を提示 し、児童の思考を揺さぶる。</p> <p>○Uの字とIの字とのちがいを捉えさせ、直線の時の決 まりが使えるのだろうか、と問い、めあてを提示する。</p>
<p>2. 複雑な形について考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">個人思考</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Uの文字を作るには、何人必要なか考える。</li> <li>・図、式、言葉などを用いて、考えたことを表現 する。</li> </ul>	<p>○図を描いたり、直線にしたりすればできそうだという 見通しをもたせる。</p> <p>○積極的に図や式を使って考えを書いている児童を褒 め、他の児童にも図や式を使うよう促す。</p> <p>○自力解決が困難な児童には、マス目の上にUの字が書 かれた図を配り、考えの助けとなるようにする。</p>

<予想される児童の反応>

A児：Uの直線上に○をかいて数える。

A. 27人

B児：Uの直線を3本の直線にわけて考える。

(誤答29人) (-2をする：正答27人)

C児：Uの曲がったところを伸ばして、1本の直線として考える。 A. 27人

ペアでの話し合い

- ・答えが何になったか確認する。どうしてその答えになったか、自分の考えを説明する。自分と似ている考えや自分と違うところを見つける。

全体での話し合い

- ・答えの確認をする。

ペア (または小グループ) での話し合い

- ・○図以外の考え方に着目し、話し合う。

全体での話し合い

- ・直線の時の決まりが使えるのはどの考えか話し合う。

3. 本時のまとめをする。

**まとめ** Uのような形の時は、1本の直線にして考えると、「間の数+1=人数」の決まりが使えて、計算で人数を求められる。

4. 適用題をする。

- ・C、S、Wの文字に取り組む。

5. 本時の振り返りをする。

○ペアでの話し合いでは、「相手にわかるように伝える」「何を言いたいのか分かって聴く」ことができている児童を賞賛する。

○まずは答えの確認をする。図で考えた児童に発表させ、27人が正答であることを押さえる。

○その後、グループで図以外の考えで解いた人の考えを聴くようにする。その際に、誤答になったのはなぜかも話し合わせ、相手に分かるように伝える力、分かるように聴く力を相互に育むようにする。

○キーワードを板書することにより、考え方の相違点と共通点を明確にする。(「図にかいて数える」「3本の直線に分けて考える」「1本の直線にして考える」)

○図と式を対応させながら話し合うようにする。

○直線にするイメージがつかみやすいように、具体物を操作し、Uから直線になる過程を提示する。

**【考】**簡単な場合で調べ、数量の関係を見つけていけば、問題解決できることがわかる。

<発言・ノート>

○1本の直線にすればよいことを使って取り組むようにする。

## 第6学年 算数科学習指導案

指導者 江崎 成美  
山中 秀記  
小木曾 幸代

### 1 単元名 資料の調べ方

### 2 指導観

- 児童はこれまでに、目的に応じて資料を集めたり分類したり、表（一次元表、二次元表）やグラフ（棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、帯グラフ）に表したり読み取ったりするなどの学習をしてきている。また、平均の意味や求め方についても学習してきている。

本単元では、資料の代表値としての平均や度数分布の表、柱状グラフなどを学習し、統計的に考察したり表現したりする能力を伸ばすことをねらいとしている。集めた資料を分類整理し、それを表やグラフなどを用いてわかりやすく表現する活動や、特徴を調べたり読み取ったりする活動を通して、的確な判断をしたり合理的な予測をしたりしようとする態度を育てることも大切である。

新学習指導要領では、統計教育の充実とその学習指導の強化が、改訂における重点事項の一つとなっており、これまで「数量関係」領域の一部に位置づけられていた資料の整理や統計的な見方に関する指導内容が、新領域「データの活用」として全学年に位置づけられている。それは、多くの情報があふれる現代の社会の中であって、特に重要な意味をもつものである。

- 本学級の児童（男子14名・女子16名）は、算数の学習が「好き」と答えた児童は21名、「どちらでもない」7名、「きらい」2名であった。好きな理由としては、「わからない問題を解くことができたときにうれしい気持ちになる」「自分で解き方を考えていく活動が好き」、嫌いな理由としては、「苦手な領域がある」「内容がわからない」という理由が挙がっていた。また、学習の仕方に関しては、「友だちの意見を聞いて考えることができるのがよい」「自分がわからないところを教えてもらえる」という理由から、「友達と話し合いながら考える」という学習の仕方が好きな児童は80%以上である。しかし、友だちと話し合いながら考える活動の中では、友だちの考えを自分の考えとくらべながら考えたり、どの考えが一番よいかと考えたりしながら聞いているのではなく、答えが一緒かどうかのみ比べたり、何も考えずに聞いたりしている児童もまだまだ多い。

児童は、体力テストの記録やテストの点数などを昨年や前回と比べたり、学級・学年の平均と比べたりすることにとっても興味をもっている。しかし、学級・学年を集団と考えてどんな傾向や特徴があるのかということには、あまり興味がない実情である。

- 指導にあたっては、児童の生活に関連した資料を取り上げ、児童が関心をもって課題解決をしていくことができるようにする。導入では、実際のソフトボール投げの記録（千代小6の○・A小・B小）を提示し、どんなことを調べたいかを話し合わせ、児童から出た調べたい内容を解決しながら、散らばりの様子についてもっと調べていきたいという小単元『資料の整理』の学習課題を設定する。まず、数直線上に記録を●で表していくことで、平均値だけではとらえられない資料の特徴や傾向をつかむことができる事に気付かせる。さらに、散らばりの様子を分かりやすく表すものとして、度数分布表や柱状グラフがあることを知らせ、かき表していく。度数分布表や柱状グラフに表し、資料を読み取る活動を通して、平均値だけでは捉えきれない集団の特徴や傾向をつかめるようにしていきたい。また、区間の区切り方を変えて柱状グラフに表すことによって、柱状グラフから読み取れる要素が違ってくことにも気づかせたい。

『くふうされたグラフ』では、まず、「2016年男女別、年齢別人口の割合の柱状グラフ」を提示し、これまで学習してきた柱状グラフとの違いについて話し合わせ、グラフが表していることが何かを考える活動を通して、目的に応じて工夫された柱状グラフについてよみとることができるようにさせる。本時で

は、2016年と1956年の2つの男女別、年齢別人口の割合の柱状グラフを比較したり、1956年・1986年・2016年の3つの男女別、年齢別人口の割合の柱状グラフを比較したりすることで、変化の様子がわかったり、未来を予測できたりすることに気付かせていく。また、資料を調べ、統計的に考察することは、わたしたちの日常生活とも深く結びついていることにも気づかせたい。

◎ 主体的・協働的に学ぶための手立て

① 発達段階に応じた話し合い活動の充実

- ・ これまで学んできた話し方・聞き方を基盤とした高学年で目指したい学び合いのモデルを提示し、日常より意識させながら日々の学習に取り組ませている。
- ・ お互いの考え方を説明する中で、何となく思っていたことが、より明確になったり、相手の考えを聞いてグラフの見方が広がったりすることができるように、話し合いを仕組んでいく。

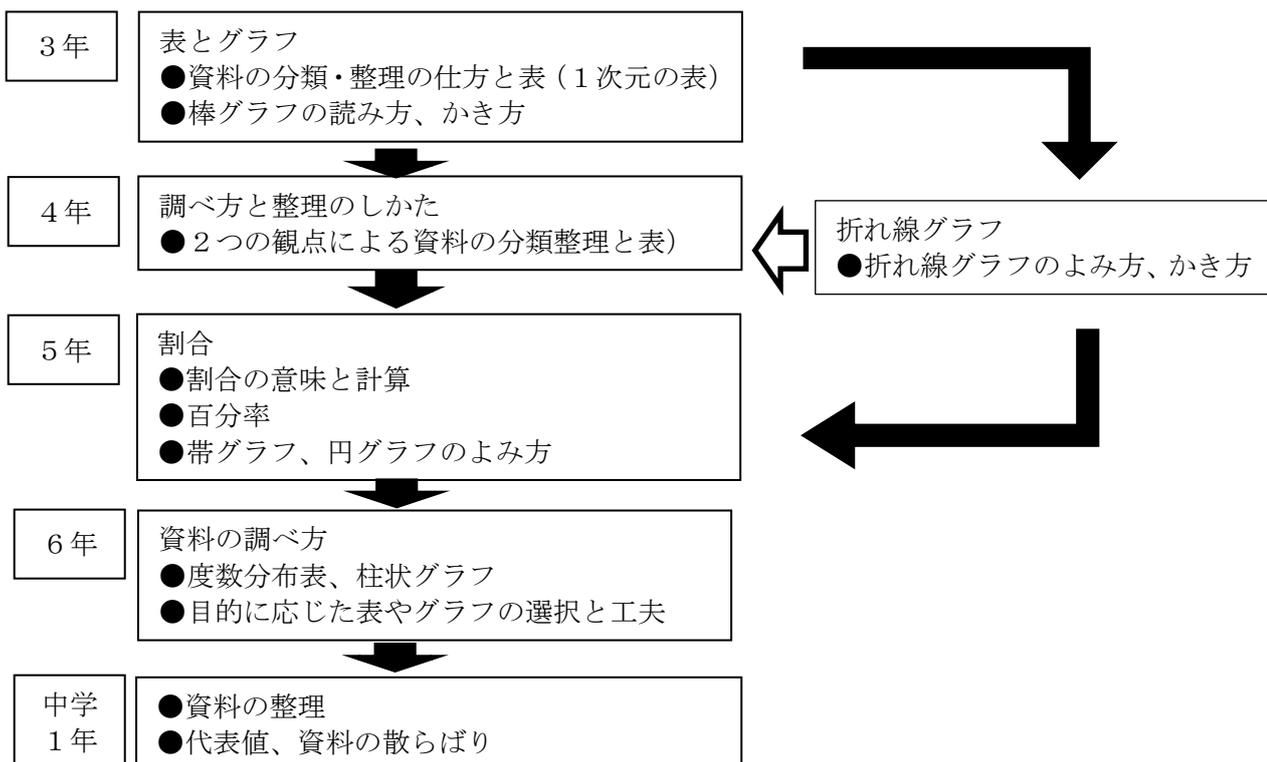
② 教師の課題提示の工夫

- ・ 実際のソフトボール投げの記録や、男女別、年齢別人口グラフを提示することによって、児童が関心をもって課題解決することができるようにする。
- ・ 年代が違ういくつかのグラフを提示することによって、「比較したい」「予測したい」という児童の課題解決意欲を高め、変化の様子や未来の予測をしっかりとこなうことができるようにする。

3 単元の目標

算数への 関心・意欲・態度	表やグラフを用いて、統計的に考察したり表現したりすることに関心を持ち、それらにもとづいて処理しようとする。
数学的な考え方	表やグラフを用いて、統計的に考察したり表現したりすることができる。
数量や図形について の技能	度数分布表や柱状グラフをかくことができる。また、目的に応じて、工夫してつくることができる。
数量や図形について の知識・理解	度数分布を表す表やグラフについて知るとともに、いくつかの資料を関連させると傾向や原因がわかることがあることを知る。

4 単元の系統



5 指導計画（総時数7時間）

時	学習活動	評価規準と評価方法
1	・ソフトボール投げの記録を見て、調べてみたいことを話し合う。 ・ソフトボール投げの記録を数直線に表し、散らばりを調べる。	資料の散らばりがよく分かるような、表やグラフの表し方に興味、関心をもち、資料の調べ方について意欲的に学習しようとする。 (行動・ノート)
2	・数直線の図をもとにして、度数分布表に表す。	散らばりを表す度数分布表を使った資料の整理の仕方を理解する。 (発言内容・ノート)
3	・度数分布表をもとにした柱状グラフの書き方を知り、それをかく。 ・棒グラフと違うところを考える。	柱状グラフを使った資料の整理の仕方を理解し、整理することができる。 (発言内容・ノート)
4	・度数分布表や柱状グラフから散らばりの特徴をよみ取る。 ・2つの柱状グラフを比較して、その違いをよみ取る。	同じ方眼紙に示された2つの集団の柱状グラフから、それぞれの特徴を読み取ることができる。 (発言内容・ノート)
5	・区間の区切りを変えて、度数分布表や柱状グラフをかく。 ・区間の区切りの異なるグラフから二つの違いをよみ取る。	区間の区切りを変えて、柱状グラフを分かりやすく表すことができる。 (発言内容・ノート)
6	・工夫されたグラフからわかることをよみ取る。	くふうされたグラフを見て、人口などの特徴を読み取っている。 (発言内容・ノート)
7 (本時)	・現在の人口グラフと過去の人口グラフを比較して、未来の人口グラフを予測する。	グラフの特徴を読み取り、統計的に考察することができる。 (発言内容・ノート)

6 本時の学習

(1) 主眼 グラフを比較する活動を通して、変化の特徴や傾向をみつけることができ、さらに、未来を予測することができるようにする。

(2) 準備 男女別、年齢別人口の割合のグラフ（1956年・1986年・2016年・2056年）

【総務省出典】

(3) 展開

主な学習活動	○ 指導・支援上の留意点 【観点】 評価規準（評価方法）
1 本時の学習問題を知り、めあてをつかむ。	○ 前時では、一番多い区間や一番少ない区間に着目して、グラフを読み取ったことを想起させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p><b>【学習問題】</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>〈1956年〉</p> <p>男女別、年齢別人口の割合 1956年 総人口 9025万人</p> <p>男 総数 4435万人 女 総数 4590万人</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>〈2016年〉</p> <p>男女別、年齢別人口の割合 2016年 総人口 12693万人</p> <p>男 総数 6177万人 女 総数 6516万人</p> </div> </div> <p>めあて <span style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">グラフを比べて読むことで、変化の特徴や傾向を見つけよう。</span></p> </div>	
	○ 一番多い区間や一番少ない区間に着目し、比較するとよいという見通しがもてるようにする。

2 グラフを比べる。

(1) 2つのグラフを比べる。(自力解決→全体)

- 1956年の一番多い区間、一番少ない区間、その人数を読み取り、その後、2つのグラフを比べるようにさせる。
- 数値を根拠にして、自分の考えを話すことができるようにする。
- 時代経過で年齢別人口が変化してきていることに気付かせる。
- 2つのグラフを比べることで、変化の特徴や傾向がわかることに気付かせるようにする。

(2) 3つのグラフを比べる。

- ・ 1986年の男女別、年齢別人口の割合はどうなっているか予測する。

- 予測させた後に、1986年の男女別、年齢別人口の割合の柱状グラフを提示する。

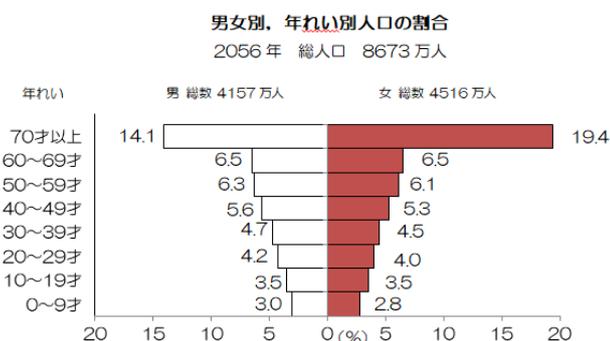
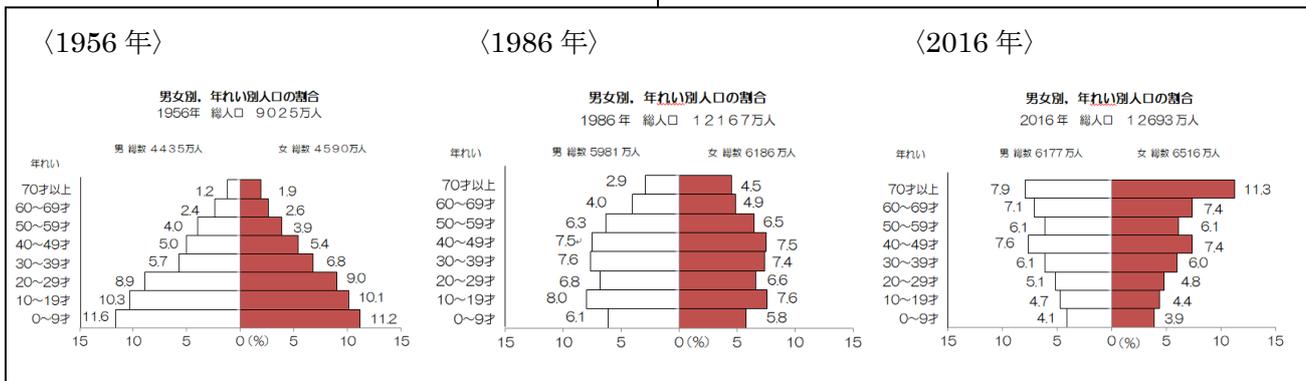
- ・ 1956年・1986年・2016年の3つのグラフを比べる。

- 2つのグラフを比べることで、その間の1986年のグラフの様子を予測できたことに気付かせる。

- 1986年の一番多い区間、一番少ない区間、0～9才の人数を読み取り、その後、3つのグラフを比べるようにさせる。

(3) 40年後の未来の男女別、年齢別の人口の割合はどうなっているか予測する。

(グループ→全体)



- 根拠を示せばどんな予測も間違いではないことを伝え、多様な考えを引き出せるようにする。
- グループに3つの柱状グラフが書かれた紙を配り、それを指し示したり、書き込んだりしながら話し合いを進めることができるようにする。
- グループで話し合うことで、何となく思っていたことが、より明確になったり、相手の考えを聞いてグラフの見方が広がったりすることができるようにする。
- 2056年の柱状グラフを提示し、自分たちの予測と比べることができるようにする。
- 【考】数値に着目して、変化の様子を読み取ったり、予測したりすることができる(発言内容)
- 予測したことから、「これからの社会はどうなっ

ていくのだろう」と問いかけることで、身近な問題として捉えさせ、統計を考察することは日常生活と結びついていて大事なことだという事に気付かせたい。

3 本時のまとめをする。

まとめ

グラフを比べて読むと、変化の特徴や傾向がわかり、未来を予測することもできる。  
そして、今から未来へ備えることができる。

4 本時のふりかえりをする。

# 特別支援（自閉・情緒）学級 やまもも3組 算数科学習指導案

指導者 村橋 正剛

T2 田中 由香里

西本 勝彦

## 1 単元名「三角形」

## 2 指導観

○ 本単元では、辺の長さに着目して三角形の特徴をとらえ、2辺の長さが等しい三角形を二等辺三角形、3辺の長さが等しい三角形を正三角形ということを理解させる、また、定規やコンパスを用いた作図、二等辺三角形や正三角形の観察、紙を切り抜いてできた三角形を折ったり、敷き詰めたりする活動、二等辺三角形や正三角形が日常生活でどのように活用されているのか知る活動等を通して、二等辺三角形と正三角形についての理解を深めたり、平面図形の広がりや図形の美しさを感じたりすることもねらいとしている。

○ 本学級の3年生児童3人（男子2人、女子1人）は、算数科の学習に対して前向きにとらえている（下記アンケート結果参照）。そのため学習内容をしっかりと定着させており、新しい学習に対しても既習事項を元に考えようとしていることも多い。2年生の内容（三角形と四角形）確認では、正方形や長方形の定義をきちんと解し、根拠をもって答えることができている。

しかし、自分の考えや答えを友だちに対して説明や発表することに対して消極的な児童が多い（下記アンケート結果参照）。また周りの考えを自分の考えと比べたり、取り入れたりすることが苦手であり、自分の考えに固執するか周りの意見に流されてしまうことが多い。

	算数は好きですか？	自分の考えを発表することは好きですか？	友だちの発表や考えを聞くことは好きですか？
A児	5	5	3
B児	3	2	4
C児	5	2	5

5・・・大好き 4・・・わりと好き 3・・・ふつう 2・・・あまり好きではない 1・・・きらい

	特性や実態
A児	テストで満点がとれなかったり、勝ち負けがつくことで勝てなかったりすると心が乱れる。自分の失敗や間違いを認めることが苦手であり、そのためカンニングなど不正を働いてしまうこともある。発表は得意であり、相手が自分と同じ考えだと上手く同調できるが、違う意見に対し、自分の考えを変えることは苦手である。声の調節が苦手である。
B児	本人の心の中で分からないなどつまずきを感じると先に進めなくなる。その際は、顔が無表情になり、周りがいくら声かけをしても反応しなくなる。時間が経つと落ち着き、先ほどのつまずきがうそのように「さらっ」と課題を解決することが多い。対話が苦手であり、特に相手の発言を考えて聞くことが苦手である。
C児	吃音があり、言葉が上手く出なかったり、同じ言葉が続いたりする。また「サ行」が「タ行」になるなど発音が不明瞭なところがある。発音に引っ張られ、文字を間違えて書くことが多い。そのため、話すことに対して抵抗がある。周りの変化に弱く、初めての場所や初めての人、初めての状況におかれると大きく心が乱れる。

○ 指導に当たっては、長さによって色分けされたストローで作られた三角形を使うことで、等しい辺の数で三角形を分類し、二等辺三角形や正三角形を定義づけていく。また、コンパスと定規を用いた三角形の作図や、円周上に任意に取った点と中心を結んだり、色紙を折ったり、切り取ったりして三角形を作る活動などを通し

て、二等辺三角形と正三角形についての理解を深めていく。単元を通して、これらの算数的活動を重視し、実感を伴った図形への理解と定着を図るとともに、図形に対して根拠をもった説明ができるようにしていく。

◎主体的・協働的に学ぶための手立て

① 発達段階に応じた話し合い活動の充実

・少人数ではあるが、今後のため、また全体での発表の練習のため、グループでの発表を行う。その後、全体での発表を行う。発表の際、話し手は、あ（相手を見る）し（しせいよく）き（聞こえる声で）、聞き手は（相手を見る）し（しせいよく）か（考えながら聞く）が基本となるようにさせる。

・児童の特性上、相手の考えに流されやすい傾向がある。そのため、教師側がわざと分かりやすい誤答を出すなどして、考えながら聞くことができるようにしたい。

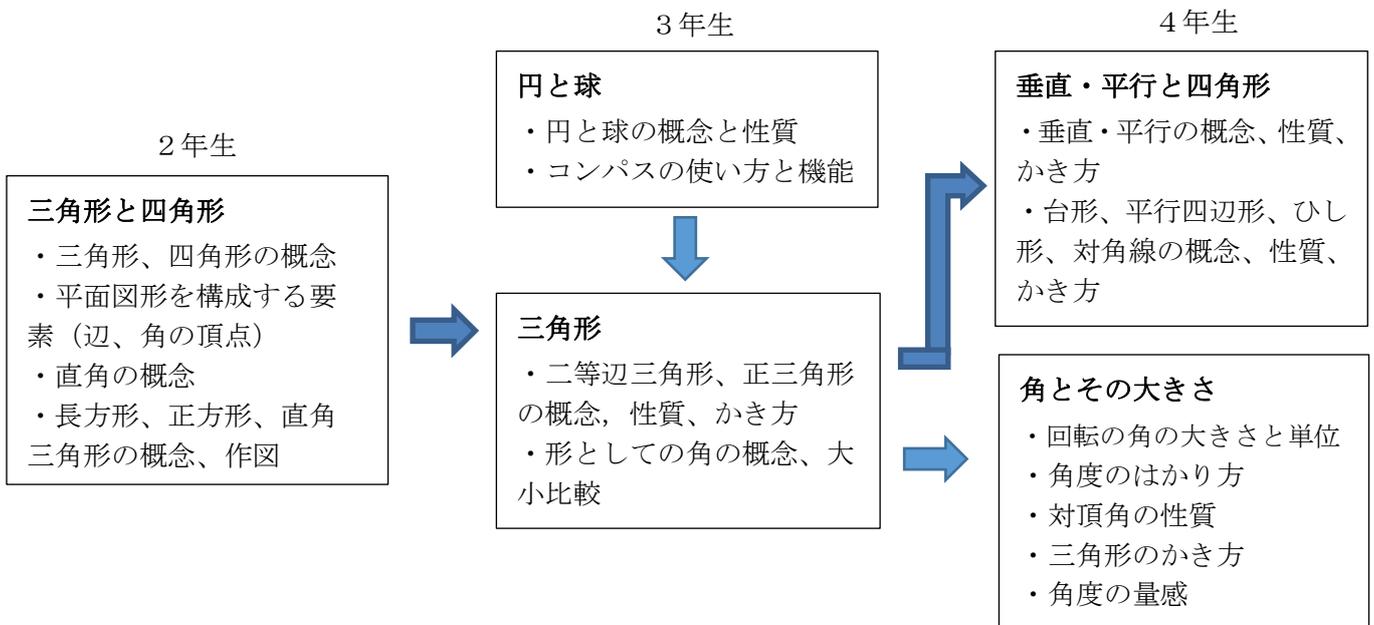
② 教師の課題提示の工夫

・コンパスと定規を用いた三角形の作図や、円周上に任意に取った点と中心を結んだり、色紙を折ったり、切り取ったりして三角形を作る活動など、図形をイメージしやすいように常に具体物を用意しておく。また導入では、三角形と四角形を使った簡単なゲームをする。その活動の中で、三角形がなかま分けされていないことに対するの不便さを感じさせ、単元に入りやすいようにしたい。

3. 単元の目標

算数への関心・意欲・態度	身の回りにある三角形の分類を通して、二等辺三角形や正三角形に関心を持ち、それらの性質や作図の仕方などを進んで調べようとする。
数学的な考え方	辺の長さや角の大きさに着目して、二等辺三角形や正三角形の分類や特徴について考えることができる。
数量や図形についての技能	二等辺三角形や正三角形の分類やコンパスを使った作図ができる。
数量や図形についての知識・理解	二等辺三角形、正三角形の性質や角の意味を理解する。

4 単元の系統



5 指導計画（総時数8時間）

時	学習活動	主な評価基準と評価方法
1	・長さの違うストローを使い三角形を作る。	【関】分類の仕方を考えようとしている。 【考・技】辺の長さに着目して三角形を分類し、その理由を説明できる。
2	・辺の長さに着目して分類し、二等辺三角形と正三角形を知る。	【知】二等辺三角形と正三角形について理解している。
3	コンパスを使って、二等辺三角形と正三角形を作図する。	【考・技】二等辺三角形と正三角形の定義や性質をもとに作図の方法を考え、かくことができる。
4	・円と半径を使ってかいた三角形は二等辺三角形になることを説明する。 ・色紙で二等辺三角形や正三角形をつくる。 ・身の回りから、二等辺三角形や正三角形の形をしたものをみつける。	【考・知】円の半径と二等辺三角形の定義や性質をふまえて、二等辺三角形になるわけを考え、説明することができる。 【技】紙を切って二等辺三角形と正三角形をつくることができる。 【技・知】折って重ねる作業を通して、等しい長さの辺を見出し、二等辺三角形と正三角形になっていることを確かめ、説明することができる。 【関】身の回りから、進んで二等辺三角形や正三角形をみつけようとしている。
5	・三角定規のかどの形と同じ形をしたものをみつける。 ・三角定規の角の大小比較をする。	【技】2つの辺の開き具合に目をつけて、角の大小比較ができる。 【知】角について理解できている。
6	・色紙で二等辺三角形と正三角形をつくり、角が重なるように折って、大きさを比べる。	【考・技】三角形の角が重なるように折る作業を通して、二等辺三角形の角の大きさの比べ方を工夫し、二等辺三角形の3つの角の大きさについて比べられる。 【知】二等辺三角形と正三角形の角の性質について理解できている。
7	・正三角形や二等辺三角形を敷き詰め、模様づくりをする。 ・正三角形や二等辺三角形を敷き詰めた模様からいろいろな形をみつける。	【関】二等辺三角形や正三角形を敷き詰め、いろいろな形をみつけようとしている。
8	・たしかめましょうをする。	

6. 本時の学習

(1) 日時 平成30年10月31日(水) 於やまもも3組教室

(2) 主眼 ストローを使って作った三角形を辺の長さに着目してなかま分けする活動を通して、二等辺三角形や正三角形の意味を理解することができるようにする。

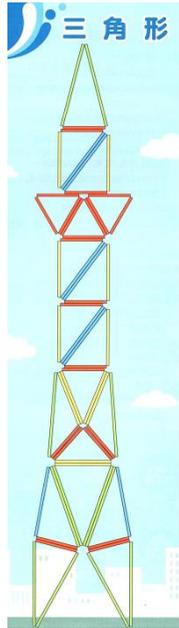
(3) 準備 教師：ストローでできた三角形・四角形、適用問題用の三角形のプリント、ホワイトボード、マーカー  
 児童：教科書、ノート、コンパス、定規

(4) 展開

主な学習活動	指導・支援上の留意点【評価基準】〈評価方法〉	個別の支援			
		A児	B児	C児	
<p>1. 三角形・四角形を使ったゲームからめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">                     めあて 三角形を3つになかま分けしよう。                 </div>	<p>○色は、「長さ」によって異なっていることを確認する。</p> <p>○「正方形」「長方形」「正方形でも長方形でもない四角形」という言葉を使うことで、四角形はなかま分けされており、みんなで揃えることができるが、三角形はなかま分けされていないので、みんなで揃えることが難しいことを体験させる。</p> <p>○四角形のように等しい辺に着目することで、三角形をなかま分けしていこうとする課題意識をもたせるようにする。</p>	<p>○リラックスできるような声かけや支援を心がける。</p> <p>○気持ちが不安定になったら、クールダウン部屋をいつでも使用してよいことを確認しておく。</p> <p>○目で分かるように、使う道具にはあらかじめ番号をつけておく。</p>	<p>○勝ち負けを感じさせないように、ゲームについて深く追求しないようにする。</p>	<p>○指示がきちんと理解できているか随時確認する。</p>	<p>○指示がきちんと理解できているか随時確認する。</p>
<p>2. 見通しをもち、三角形のなかま分けの仕方を考える。</p>	<p>【関】 分類の仕方を考えようとしている。</p> <p>○見通しの問いかけに対し反応がない場合は、再度四角形を取り上げ、辺に着目していることに気づかせる。</p> <p>○なかま分けができた児童には、そのように分けた根拠や考えが説明できるようにさせ、簡単な言葉でノートに記入させる。</p>	<p>○指示がきちんと理解できているか随時確認する。</p> <p>○表情をよく見て、教師側から声かけをする。</p>	<p>○指示がきちんと理解できているか随時確認する。</p>	<p>○指示がきちんと理解できているか随時確認する。</p>	<p>○指示がきちんと理解できているか随時確認する。</p>

<p>3. 三角形のなかまの分けの仕方について話し合う。</p> <p>①グループでの話し合い。</p> <p>②全体での話し合い。</p> <p>4. 二等辺三角形・正三角形の定義を確認し、本時の学習のまとめをする。</p>	<p>○自分の考えと似ているところや違うことに着目させながら、互いの考えを伝え合うようにさせる。</p> <p>○ホワイトボードを見せ合い、そのように分けた理由を明らかにしながら説明させる。</p> <p>○児童の言葉からキーワードを拾い、「等しい辺」で分けたことを押さえる。</p> <p>○等しい辺に着目すると、3つに分けることができることを理解させる。</p> <p>【考・技】辺の長さに着目して三角形を分類し、その理由を説明できる。</p> <p>○「等しい」という言葉をきちんと押さえる。</p> <p>○「向き」が変わっても「大きさ」が変わっても、二等辺三角形や正三角形であることを押さえる。</p>	<p>○声が大きくなりすぎないように声かけをする。</p> <p>○誤答や失敗があっても、あたたかな声かけを行う。</p>	<p>○発表が負担にならないようにする。負担になるようであれば、やめさせる。</p> <p>○指示がきちんと理解できているか随時確認する。</p>	<p>○発表が負担にならないようにする。負担になるようであれば、やめさせる。</p> <p>○指示がきちんと理解できているか随時確認する。</p>
<p>まとめ 等しい辺の数に着目すると、二等辺三角形、正三角形、そのどちらでもない三角形に分けることができる。</p>				
<p>5. 適用問題をする。</p>	<p>○初めは色分けされた三角形を提示、2問目は長さが記入された三角形を提示して、それぞれ何三角形かを発表させる。また、その根拠を発表させる。</p> <p>○3問目は色分けされていない三角形を提示し、どうしたら確認できるか発表させる。</p> <p>○コンパスを使うことが出ない場合は、教師側から提示し、使い方を確認させる。</p> <p>○4問目以降は自力解決させ、何三角形かを根拠を明確にさせながら発表させる。</p> <p>【知】二等辺三角形と正三角形について理解している。</p>		<p>○指示がきちんと理解できているか随時確認する。</p>	<p>○指示がきちんと理解できているか随時確認する。</p>
<p>6. 本時の振り返りをする。</p>		<p>○頑張った姿や上手にできた場面をとらえて称賛し、自信をもたせる。</p>		

ご指導お願いいたします。



10/27  
P 3

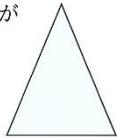
めあて  
三角形を3つになかま分けしよう。

見通し

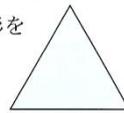
- ・ 同じ色
- ・ 同じ辺の長さ
- ・ 同じ辺の長さの数



2つの辺の長さが  
等しい三角形を  
二等辺三角形  
といいます。

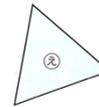


3つの辺の長さがみんな  
等しい三角形を  
正三角形  
といいます。

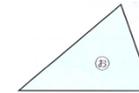
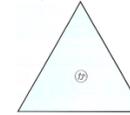


まとめ  
等しい辺の数に着目すると、二等辺三角形、正三角形、  
そのどちらでもない三角形に分けることができる。

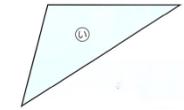
二等辺三角形



正三角形

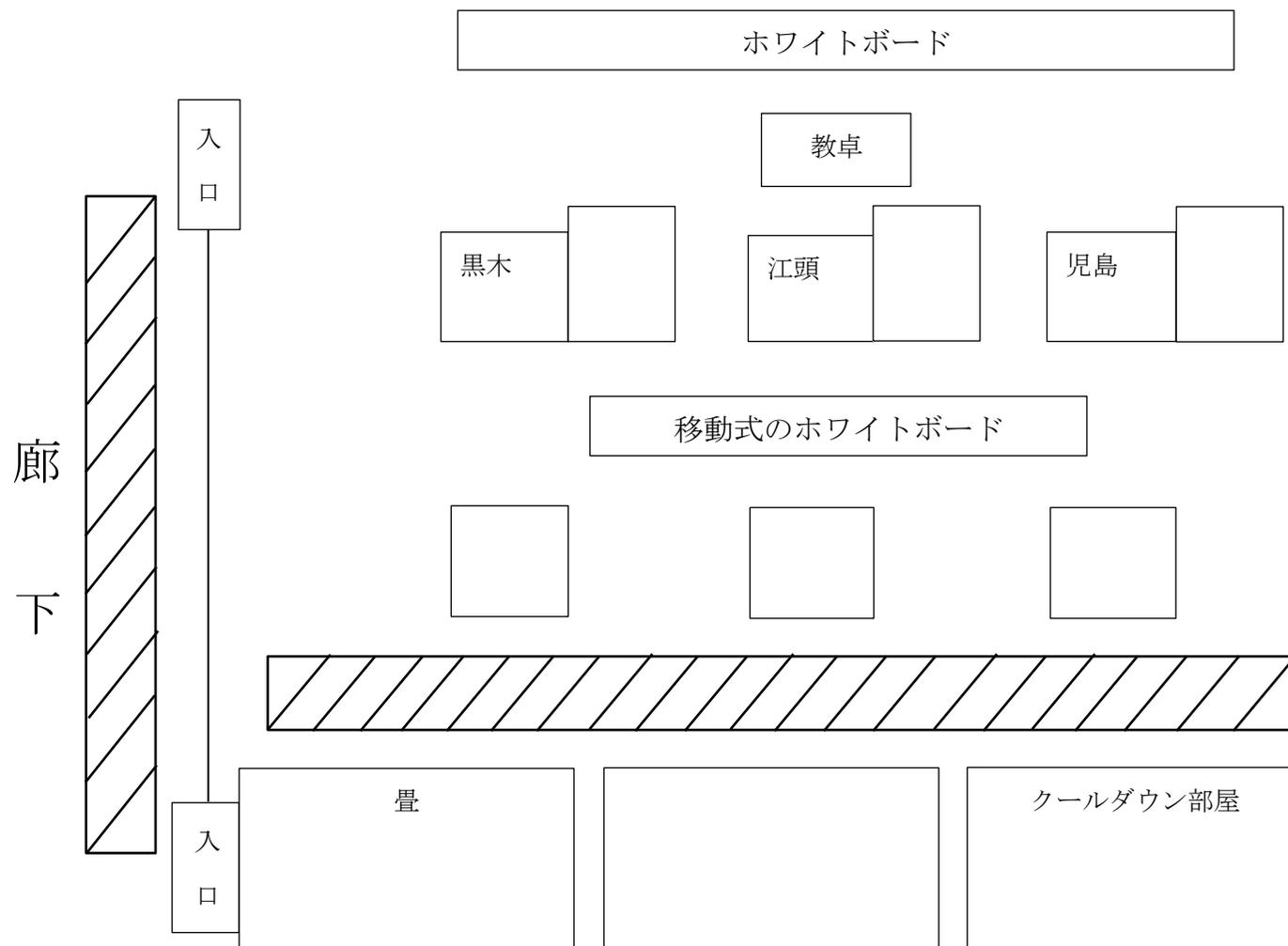


どちらでもない三角形



ふりかえり

やまもも3組 座席表



※教室の関係上、全員が入れない恐れがあります。ご不便をかけますが、 でのご観覧をお願いいたします。  
※特性上、見られる・話しかけられることに強い抵抗を感じる子どもがいます。どうぞご配慮をお願いいたします。